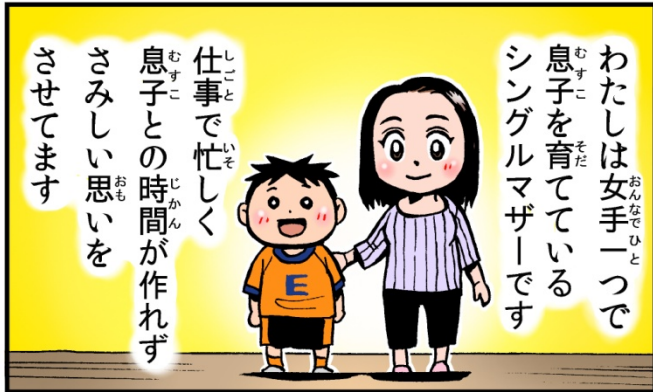


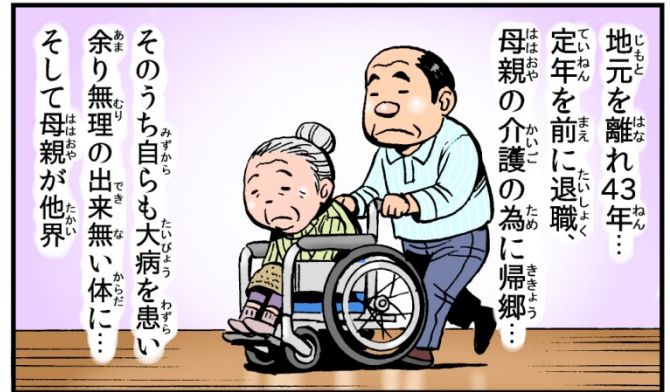
「愛媛FCに元気をもらった」を集めよう！

MIP賞(もっとも印象に残るお話)

松山市 31歳女子の場合



東温市 67歳男性の場合



画：のうだ たつき

「愛媛 FC に元気をもらった」を集めよう！

まえがき

私たちは、Jリーグの愛媛FCはいろいろな形で私達の生活に元気を与えてくれる存在だと考えています。たくさんの方々がいろいろな形で元気をもらっていると思います。

この愛媛FCの存在価値・意義を幅広く愛媛県民の方々に知っていただきたく、このたび、愛媛県プロスポーツ地域振興協議会の助成を受け、自由投稿の形で、2011年8月の約一ヶ月間、皆さんの体験談をお寄せいただき、この冊子にとりまとめました。また、そのうち、印象に残るお二人のお話を、愛媛県出身の漫画家、能田達規先生が表紙の4コマ漫画にして下さいました。

ここに寄せられた皆さんのお話は、まだ、ごく一部だと思いますが、これらをお読みになり、「それなら元気をもらいに行ってみんといかんわい」という方がどんどん生まれ、県内全域、さらには全国の愛媛ゆかりの皆さんにこの元気、「愛顔(えがお)」が広まることを願っています。

できましたら、また体験談をお聞かせいただく次の機会を設けさせていただきますので、それまでの間、ぜひ、愛媛FCとの素敵な経験を積み重ねられてください。

2011年9月

※ 本冊子を閲覧のために置かせていただける企業、学校、団体、施設などのご関係者の方は、お手数ですが、下記までご連絡ください。

愛媛 FC サポート連絡会

ホームページ: <http://efck.net/action/>
(本冊子のPDFファイルをダウンロードいただけます)

電子メール: orange@ehime-support.net

ファックス: 050-3488-8325

「愛媛 FC に元気をもらった」を集めよう！

目次

4枚のチケットから	1	大切なもの	66
価値ある練習見学	2	応援したいチームは愛媛FCです！	67
あきらめない心	3	私と愛媛FC	72
我が家とサッカー	4	地元のプロスポーツがあるよろこび	74
夢をかなえること	5	世界との窓口 愛媛FC	75
私と息子と愛媛FC (★MIP賞)	7	あたしと、愛媛FC。	78
この街に帰ってきた	9	生き甲斐 (★MIP賞)	81
ゴジマルくん？	10	愛媛との出会い	82
自分の原点が「愛媛」だ	11	俺は愛媛が大好きさ！	84
もどった笑顔	12	愛媛FCのサポーターになって	86
だって愛媛県民だから	15	私には帰る場所がある	87
愛媛FCのマスコット達にもらう元気	16	じゃって愛媛が好きじゃもん」	88
関根永悟からもらった元気	19	見知らぬ土地で	89
おかげさまで、毎日がスペシャル！	21	愛媛FCに感謝	92
せんばい！ ありがとう！	22	サッカーのある生活	93
えひめFCとわたし	26	家族の楽しみ	95
誇るべき故郷	28	愛媛FCを好きになった瞬間	96
絆と笑顔をありがとう	30	トキメク！	98
遠い街から。	33	愛媛FCが僕にくれたもの	100
先祖がとりもつ縁・前のみを見つめ歩む	34	選手は移籍する。でも俺達は移籍しない	101
2007年9月23日	36	恩師から広がる輪	103
愛媛に通った5年間	39	オレバスからもらった元気	105
時代を動かすのは、純粋な少年・少女の心	40	この街、を感じて	106
東京での生活と愛媛FC	42	地元愛と夢	108
親子で観戦することの大切さ	44	愛媛FCとともに生活していければ	110
愛媛FCと禁煙と私	46	愛媛県人の誇りと希望を	112
あの日静岡で見た虹の架け橋	50	礎～イシズエ～	114
愛媛FCを好きになると、愛媛がもっと好きになる	52	小さな勇気	116
リアルー平くんはダメよ！	53	日々私に力をくれるもの	118
故郷を取り戻してくれた愛媛FC	57	※ 概ね投稿順ですが、会場受付とご郵送分は最後に まとまっています。	
感激を喜びをありがとう	61		
勇気と元気で愛を	62		
娘の成長と共に・・・	63		
大好き	64		
福岡よりも大好きなえひめFC	65		



当会のシンボルマーク

「かんとたい」

みかん＋鯛＋タオル＋真珠

(能田達規先生作)

伊予市在住	健康でいなければ	ところですか。	息抜きができて	子夫婦達も、隔週毎	方ができ、ほんとに	愛媛FCのおかげで	も少なくなりがち	内から距離を置く	も、一つ歳が増える	、小さかったころ	なっています。	うちに送って行く	に愛媛FCの応援	夕飯を一緒に食べ	合の前日に息子が	とから誘って観に行	した。ちやうど孫が	カー好きの甥から	私が愛媛FCの試合
男性七十歳	ばと思いません。	少しでも長く続け	いるようで一石二鳥	毎に子育てから少し	にありがたいこと	この楽しい週末の	だったところ	ようになって、交	たびに、少しずつ	はよくなついていた	。	のが試合のある週	に声を出し、帰りに	、お風呂に入れ、翌	孫を送り届けてき	くようになり、今	がサッカーを習って	もらった4枚のチケ	をみたきっかけは
観戦歴4年		られるように	鳥といっただ	離れて	です。息	過ぎ	で、	わす言葉	私や家	孫たち		課に	息子の	日一緒	ます。	では試	ているこ	ットで	サッ

「価値ある練習見学」

愛媛県松山市在住 :27歳 応援歴:9ヶ月

前日に妹と大喧嘩。気が滅入った状態で、梅津寺に練習を見に行った僕。楽しく練習するイレブンを見て 胸のもやもやが消え去り、見てる僕も楽しくなりました。実は、初めての練習見学だったので 価値のある練習見学になりました。

新 居 浜 市 在 住	め な い 心 を 持 っ て 挑 ん で い き ま す	近 々 あ る 二 次 試 験 も 愛 媛 FC の 応 援 で 培 っ た 諦	事 が で き ま し た 。こ れ も 諦 め な か っ た か ら 。	受 け て も 受 か ら な か っ た 一 次 試 験 を 突 破 す る	そ し て 、今 年 も 受 験 を し て き ま し た 。何 回	の で す 。	え て く れ ま す 。だ か ら 、自 然 と 諦 め な く な る	張 り 上 げ て 飛 び 跳 ね て い る と 選 手 は そ れ に 応	て 、相 手 に 先 制 点 を 取 ら れ て も 、私 達 が 声 を	実 際 に ス タ ジ ア ム の ゴ ール 裏 で 応 援 し て い	し た 。	事 に よ っ て 諦 め の 悪 い 人 間 に な っ て し ま い ま	た だ 、私 は 諦 め ま せ ん 。愛 媛 FC を 応 援 す る	次 試 験 す ら 通 っ た 事 が あ り ま せ ん 。	四 回 受 験 し 、こ と ご と く 落 ち て き ま し た 。一	験 に 合 格 し な け れ ば な り ま せ ん 。昨 年 ま で に	し か し 、そ の 目 標 を 達 成 す る に は 年 一 回 の 試	私 は 今 、あ る 目 標 に 向 か っ て 進 ん で い ま す	あ き ら め な い 心
----------------------------	---	---	--	--	---	------------------	--	--	--	---	-------------	--	--	--	--	--	--	---	---------------------------------

。

我が家とサッカー

松山市 女性 66歳 応援暦7年 08/17 15:41

長男が4年生で松山サッカースクールに入学させていただいてから、次男三男とつづき、始まった私のサッカー人生三十余年、我が家の歴史そのものです。

あの辛い練習の時 おばちゃんが結婚して あの試合の前に じいちゃんが亡くなって Kの大事な試合と YASUの大事な試験が重なって と 我が家の歴史を語る時の枕詞は いつもサッカーがらみ、でも それは家族が一つになっている証拠、幸せの証！！です。そして最高の喜びは、愛媛に Jリーグチームが誕生したことです。

署名活動に走り「愛媛の幸せの為に」と、力を貸してくれた、かつてのチームの父母、暖かい人達の輪が一つに繋がりました。 愛媛 FCの誕生です。

それから五年 スタジアムで会う方々面々の なんと幸せな顔 顔 顔 みんなにパワーを送ってくれる すばらしいエネルギー！！

ありがとう 愛媛 FC！！ ばんざい 愛媛！！

私と息子と愛媛FC

私は片手1つで"息子を育てています。
息子には、ガマンさせず、やりたい事をさせた
思いから仕事、仕事の毎日を送っている。
仕事も遅く、リ帰ってきてもつかれてお
息子の言語など聞く時間なく息子には
さけない思いをさせてしまっている。
そんな日々の中、愛媛FCの開幕単体のエスコートキッズを
息子がすることになった。
私は、たまたま休日であったため、
何気なく連れて行ってもらった。
スタジアムに行くのも学生の時から
行ったこともなかった。
スタジアムでは、オレンジ色に染まってお
なぜか胸がドキドキしたのを覚えている。
息子は少し緊張した顔で"エスコートキッズ"とい
大役をおえた。
"このあとの試合やるけん、一緒に行くや"と
息子に誘われ、スタジアム内で"試合"を見た。
サポーターというものを、実物をはじめて見た。
熱気がおどく伝わってきた。
初めての息子とのサッカー観戦は、息子に1つ
近付き、息子の話を聞き、息子の笑顔を目撃した
日だった。
として、今まで1人にしてきた時間と取り戻すように。

ホームで言試合のある日は、息子と亀貝戦に行っている。

馬車場からスタジアムまでの坂道、息子との愛媛FCについて話せる、おたが「か」共有する時間、同じ趣味ができた。

息子との時間をあたえてくれた愛媛FCに感謝

愛媛県松山市、サ子、31才、愛媛FC観戦歴 半年

「ゴジマルくん？」 76歳になる母は父をなくして以来一人暮らしです。元来おしゃべり好きなところ、普段、近所に気楽に話せる人がいないためか、黙っていてストレスが溜まるようです。そのストレスを発散してくれるのがスカパー観戦することを楽しみにしている愛媛FCの試合中継です。見逃さないように大きく手書きした日程表が冷蔵庫のドアに貼付けてあります。試合が始まると、およそ七十代とは思えない勢いでへこたれそうな選手を叱り飛ばします。そんななか「ゴジマル君がいかんわい」「またゴジマル君がはずした」「ゴジマル君やっど決めたわい」と不思議な愛称を叫んでいるので尋ねてみたら、横文字が苦手なためジョジマールをゴジマルと覚えてしまったのでした（汗）。負けが続くと血圧が上がりがねないので是非、母親を元気づけるスカッとした勝利をお願いします。いつまでも元気で檄を飛ばし続けて欲しいものです。伊予市在住 76歳女性 応援歴5年

愛	媛	FC	と	関	わ	り	、	自	分	の	原	点	が	「	愛	媛	」	だ		
と	い	う	こ	と	を	改	め	て	知	っ	た	。								
高	校	卒	業	後	、	愛	媛	か	ら	出	た	く	て	東	京	に	来	た	。	
た	だ	毎	日	を	過	ご	す	だ	け	で	、	故	郷	の	こ	と	を	考	え	
る	こ	と	も	な	か	っ	た	。	初	め	て	の	観	戦	は	2002	年	天		
皇	杯	平	塚	競	技	場	の	湘	南	戦	。	試	合	に	は	敗	れ	た	が	、
チ	ー	ム	、	サ	ポ	ー	タ	ー	共	に	愛	媛	を	背	負	い	、	代	表	
し	て	、	プ	ロ	を	本	気	で	目	指	す	の	だ	と	い	う	熱	意	に	
あ	ふ	れ	て	い	た	。	手	伝	い	た	い	と	思	っ	た	。				
2005	年	5	月	東	京	で	の	試	合	後	、	交	流	会	を	開	き	、		
150	名	も	の	方	が	来	て	く	れ	た	。	9	月	は	署	名	活	動	も	
行	っ	た	。	関	わ	る	人	全	て	が	同	じ	ベ	ク	ト	ル	で	突	き	
進	ん	だ	稀	有	な	時	間	を	共	有	さ	せ	て	も	ら	っ	た	。	こ	
の	年	か	ら	愛	媛	に	行	く	よ	う	に	な	っ	た	。	東	京	、	松	
山	、	全	国	で	仲	間	が	で	き	た	。	東	予	、	中	予	、	南	予	
を	越	え	て	愛	媛	と	い	う	キ	ー	ワ	ー	ド	で	話	が	膨	ら	む	。
愛	媛	の	魅	力	を	み	ん	な	か	ら	教	わ	っ	た	。	両	親	と	も	
話	を	す	る	よ	う	に	な	っ	た	。	地	元	に	恩	返	し	を	と	い	
う	気	持	ち	も	芽	生	え	た	。	全	て	は	愛	媛	FC	が	あ	っ	た	
か	ら	こ	そ	。	関	係	さ	れ	た	皆	様	に	感	謝	し	ま	す	。		

そ	の	年	の	ホ	ー	ム	最	終	戦	で	は	フ	ェ	ア	プ	レ	ー	フ	を	私	達	に	教	え	て	く	れ	ま	し	た	。	そ	し	て	、	サ	ツ	カ	ー	の	楽	し	さ	、	応	援	す	る	喜	び	に	、	妻	は	元	気	を	も	ら	え	た	の	だ	と	思	い	ま	す	。	最	後	ま	で	諦	め	ず	ボ	ー	ル	を	追	い	続	け	る	選	手	達	っ	て	い	ま	し	た	。	は	あ	り	ま	し	た	。	そ	し	て	、	妻	の	顔	に	は	笑	顔	が	戻	り	今	ま	で	感	じ	た	事	の	無	い	興	奮	と	感	動	が	そ	こ	に	観	に	行	っ	て	み	ま	し	た	。	に	な	れ	ば	と	思	い	、	み	ん	な	で	愛	媛	F	C	の	試	合	を	興	味	も	無	か	っ	た	私	達	で	し	た	が	、	妻	の	気	晴	ら	し	い	？	と	誘	わ	れ	ま	し	た	。	今	ま	で	サ	ツ	カ	ー	な	ん	て	そ	こ	で	妻	の	弟	か	ら	サ	ツ	カ	ー	で	も	観	に	行	か	な	た	。	人	で	妻	の	実	家	の	愛	媛	へ	帰	省	す	る	こ	と	に	し	ま	し
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

だって愛媛県民だから

オリンピックの日本人選手を応援するのはなぜか？

それはきっと、私が日本人だからだ。

高校野球の愛媛県代表を応援するのはなぜか？

それは私が愛媛県民だからだ。

私にとってバルセロナーレアルマドリードよりも、愛媛FCー徳島ヴォルティスの試合が重要なのは、往年の名アナウンサーの言葉を借りるならば、それは

「ピッチ上のいる11人は、彼らではなく私自身だから」、だ。

東京に住んで15年目。愛媛FCと関わる前、私は何人の愛媛県出身者とであったろうか？

3人か、4人か？

愛媛FCの応援を真剣に初めてからは、もう100人以上の方に出会っただろう。

サッカーの応援していれば、故郷に繋がる。

たったひとつ、「愛媛」というキーワードがあるだけで。

私は、シーズンのほとんどの試合をスタジアムで観戦している。

年間の半分の試合が900km近く離れたホームタウンで行われ、そこに数人の仲間とレンタカーを駆って毎度毎度。

ヘビーユーザーに支えられているJリーグの中でも、稀有な存在であろうと自覚している。

なぜそこまでするのか、そこまですることができるのかと人は問うが、それは私が愛媛県民だからだとしか答えられない。愛媛FCが私にとってそれだけの価値のあるクラブだということだ。

愛媛に生まれ、愛媛で育ち、100%愛媛のDNAを持つ私にとって、私自身とたとえられるクラブは世界中に愛媛だけだ。

足りないものがありすぎるクラブ。

時には片道1200km走って、無様な試合を見せられることもある。

それでも、負け試合を心底悔しがって、勝ち試合を心底喜べるクラブは、ここにしかないのだ。

だって愛媛県民だから。

東京都杉並区在住 34歳男性 観戦歴7年

「愛媛FCのマスコット達にもらう元気」

Jリーグにマスコット数あるなか、愛媛FCのマスコット達ほど、その地域をダイレクトに表しているものはありません。三柑ともどこからみても「みかん」および「伊予柑」です。

彼らは地元スタジアムや地元のイベントだけでなく、愛媛をアピールするために全国に出かけています。行く先々でPOMジュースなど愛媛の名産品を持って紹介しています。Jリーグの写真ホームページでもたびたび取り上げられたくさんの人に見られ閲覧ランキング上位に入ります。愛媛FCをこよなく愛する漫画家、能田先生が生み出してくれた三柑ともそれぞれ表情豊かでクラブの枠を超えて大人気です。何百万人のJリーグファンには、愛媛が日本のどこにあって、名産がみかんであること知らない人はいないんじゃないかと思えます。いわば「常任みかん大使」です。

彼らは愛媛FCが愛媛を元気にする役割のなかの重要なパートを担っています。彼らを見る

たびに、自分も愛媛のために何かしなければ、

と思います。

また、正式なマスコットではありませんが、

愛媛FC熱烈サポーターとして、全国のJリー

グファンに愛されているカエルの一平くん

もいつも大きな元気をもらいます。一平くん

はいつも自ら道化の役を買ってでて、試合前

やハーフタイムのスタジアムを笑いに包みこ

みます。綿密に練られたシナリオと、他のマ

スコットにはあり得ないその運動能力をもっ

て、ときには哀しさ、痛ささえ感じるほど、

けなげにスタジアムの皆さんを楽しんでもら

うことに徹しています。そこにはさだまさし

のあの名曲に通じるものを感じます。まさに

現代のピエロです。

君のその小さな腕に

支えきれない程の哀しみを

せめて笑顔が救うのなら

僕は道化師になろう

三柑、とくに伊予柑太との連携にもますます

磨きがかかり、次はなにをやってくれるのか、
毎回愛媛FCの試合と同じくらい楽しみです。
スタジアムでマスコット達に出会った人はま
ず間違いなく笑顔になります。ツイッターな
どでも、マスコット達をみて楽しくなった書
き込みが多数寄せられています。スタッフの
方々のご苦労は並大抵ではないと思いますが、
これからも愛媛FCを、愛媛を元気にするため
に頑張ってください。

東京都在住 40歳男性 応援歴5年

愛	媛	FC	所	属	の	13	番	関	根	永	悟	選	手	。	私	が	彼	と	
出	会	っ	た	の	は	彼	が	高	校	2	年	の	夏	の	こ	と	、	今	と
同	じ	右	サ	イ	ド	バ	ッ	ク	で	埼	玉	県	総	体	予	選	を	戦	っ
て	い	ま	し	た	。	そ	の	後	CB	に	コ	ン	バ	ー	ト	、	高	3	で
は	キ	ャ	プ	テ	ン	に	な	り	、	埼	玉	県	の	国	体	少	年	選	抜
に	も	選	ば	れ	ま	し	た	。	卒	業	後	彼	は	ル	ミ	ノ	ッ	ソ	狭
山	で	働	き	な	が	ら	サ	ッ	カ	ー	を	す	る	こ	と	を	選	び	ま
し	た	。	そ	れ	か	ら	数	年	、	当	時	の	愛	媛	FC	の	石	橋	監
督	か	ら	電	話	を	も	ら	い	ま	し	た	。	「	お	前	を	知	っ	と
る	奴	が	セ	レ	ク	シ	ョ	ン	に	来	と	る	ぞ	！	よ	さ	そ	う	や
け	ん	合	格	に	し	た	け	ん	。」	「	誰	で	す	か	？	」	「	関	根
ゆ	う	ん	よ	」	「	え	っ	？	」	正	直	冗	談	か	と	思	い	ま	し
た	。	永	悟	に	連	絡	し	て	聞	い	て	み	る	と	、	「	ど	う	し
て	も	プ	ロ	で	や	り	た	か	っ	た	ん	で	受	け	ま	し	た	」	と
の	こ	と	、	彼	が	入	団	し	た	の	は	2005	年	、	JFL	最	終	年	
で	し	た	。	早	速	私	は	ス	パ	イ	ク	を	プ	レ	ゼ	ン	ト	し	、
初	め	て	私	が	愛	媛	に	観	に	行	っ	た	HONDA.FC	戦	で	、	そ		
の	ス	パ	イ	ク	を	履	き	ス	ー	パ	ー	シ	ュ	ー	ト	を	決	め	て
く	れ	ま	し	た	。	そ	の	後	何	年	も	レ	ギ	ュ	ラ	一	定	着	と
は	言	え	な	い	中	、	時	に	は	、	移	籍	の	相	談	も	受	け	な

が	ら	、	彼	は	チ	ャ	ン	ス	を	待	ち	ま	し	た	。					
そ	し	て	、	バ	ル	バ	リ	ッ	チ	監	督	が	就	任	す	る	と	完	全	
に	レ	ギ	ュ	ラ	ー	に	定	着	、	ス	タ	ジ	ア	ム	に	は	背	番	号	
13	が	増	え	、	個	人	T	シ	ャ	ツ	ま	で	販	売	さ	れ	ま	し	た	。
今	回	の	怪	我	に	よ	る	長	期	離	脱	で	は	、	ス	タ	ジ	ア	ム	
に	来	る	楽	し	み	が	半	分	に	な	り	ま	し	た	と	言	っ	て	下	
さ	る	フ	ァ	ン	の	方	ま	で	い	ら	っ	し	ゃ	い	ま	す	。			
	永	悟	の	中	高	時	代	を	知	る	人	で	彼	が	こ	こ	ま	で	注	
目	さ	れ	る	選	手	に	な	る	と	予	想	し	た	人	は	い	な	い	で	
し	ょ	う	。	私	も	で	き	ま	せ	ん	で	し	た	。	永	悟	は	挑	戦	
し	続	け	ま	し	た	。	そ	し	て	お	母	さ	ん	も	そ	の	夢	を	応	
援	し	続	け	ま	し	た	。	今	に	な	っ	て	思	え	ば	、	高	校	時	
代	か	ら	永	悟	は	考	え	方	も	変	わ	っ	て	い	な	い	し	、	お	
母	さ	ん	も	今	の	ま	ま	だ	っ	た	よ	う	に	思	い	ま	す	。	愚	
直	に	10	年	以	上	続	け	た	成	果	が	今	花	開	い	て	い	る	と	
思	い	ま	す	。	早	く	怪	我	を	治	し	、	ピ	ッ	チ	に	立	ち	、	
愛	媛	の	全	て	の	方	に	、	あ	き	ら	め	ず	頑	張	り	続	け	れ	
ば	、	小	学	生	・	中	学	生	で	目	立	た	な	く	て	も	、	こ	う	
や	っ	て	み	ん	な	に	認	め	て	も	ら	え	る	ん	だ	よ	と	い	う	
こ	と	を	証	明	し	て	欲	し	い	と	思	い	ま	す	。	頑	張	れ	！	

「おかげさまで、毎日がスペシャル！」

2月。発表になったJリーグの日程を、私たち夫婦はそれぞれのスケジュール帳に書き写していく。そして、一通りの記入が終わると、楽しい楽しい夫婦会議の始まり。

すでに決まっている、お互いの仕事のスケジュール、子供たちの学校のスケジュール、それらを元に、今年は、このAWAYに絡めて、旅行にいこう。このホームゲームではイベントを企画したいなあ。などと、具体的に決めていく。

スケジュール帳に予定を書き込んでいだけで、明日からの毎日が、とってもわくわくと、待ち遠しいものになる。

そして、子供達も。「予定決まった～??」「今年はどこいく～??」サッカーには興味のない長女にも、同じリーグにどのチームがいるかは重要問題。だって、それによって旅行に行くことのできる土地が決まるのだから。毎年、終盤戦は順位表とにらめっこ。

ホームゲームには100%参戦の次女と長男。ただ応援するだけでは物足りないらしく、楽しく応援するにはどうしたらいいか？お客さんが増えるにはどうしたらいいか？選手を元気づけるにはどうしたらいいか？戦術は？そんなことに気をもむ毎日。

愛媛FCと共にある生活をしている私たち家族は、それぞれの立場、年齢で、中身は全く違うけれど、考えたいこと、やりたいこと、わくわくすることが次から次へと沸いてきて、飽きないどころか、忙しすぎるくらい楽しい毎日。そして、それは、年を重ねてもその時その時自分にあった楽しみ方ができる。ここに愛媛FCがある限り。なんて素敵！

ほんと、愛媛にお嫁に来て、愛媛FCに出会えてよかった^^

松山市在住 主婦 39歳 観戦歴 5年

後	半	が	始	ま	る	時	、	コ	ー	チ	が	紹	介	し	よ	う	と	し		
た	ら	・	・	・	。															
「	し	っ	と	る	～	！	7	番	や	ろ	う	！	」							
「	前	田	選	手	や	ん	な	～	。	」										
「	ち	ゃ	う	ち	ゃ	う	前	野	選	手	や	で	～	。	」					
な	ん	て	、	子	供	た	ち	は	大	喜	び	で	す	。	そ	し	て	、	試	
合	が	始	ま	る	と	、														
「	前	野	！	パ	ス	！	」	っ	て	パ	ス	を	要	求	し	た	り	！		
「	前	野	！	シ	ュ	ー	ト	！	」	っ	て	パ	ス	を	出	し	た	り	。	
前	野	選	手	は	、	笑	顔	で	子	供	達	の	生	意	気	す	ぎ	る	要	
求	に	き	っ	ち	り	こ	た	え	、	そ	し	て	、	さ	す	が	元	サ	ッ	
カ	ー	小	僧	（	今	も	で	す	よ	ね	）	子	供	相	手	に	結	構	む	
き	に	な	っ	て	、	シ	ュ	ー	ト	し	ち	ゃ	っ	た	り	て	・	・	・	。
「	す	げ	ー	！	」	「	さ	す	が	ー	！	」								
そ	ん	な	楽	し	い	試	合	が	終	わ	っ	て	、	整	列	。	コ	ー	チ	
か	ら	、																		
「	前	野	選	手	に	お	礼	を	言	い	ま	し	よ	う	。	」				
「	有	難	う	ご	ざ	い	ま	し	た	！	」									
そ	の	後	、	子	供	た	ち	が	一	人	づ	つ	、	前	野	選	手	に	ハ	
イ	タ	ッ	チ	。	そ	の	と	き	の	子	供	た	ち	の	コ	メ	ン	ト	が	

かわいくって。中でも思わず笑っちゃったの

が、

「せんぱい！ありがとな！がんばってな！」

なんてえらそうに・・・。

前野選手は愛媛県ユース出身で、大学は県外

に出て、卒業後、愛媛FCに戻ってきてくれた

選手です。それを知っているからの言葉だっ

たのでしょう。

前野選手だけではありません。オフ明けで午

後の練習があるとき、スクールが始まる前ま

でトップチームの練習があるときがあります。

そんな時選手たちは、早く来て、ボールを蹴

っている子供達に混ざって、必ず、遊んでく

れます。それも、嫌々ではなく、かなり楽し

そうに。彼らも、サッカーが好きで好きでた

まらない、この子供たちとプロになっても同

じなんだなあと思わず微笑んでしまいます。

TVなどで見る、プロのサッカー選手とサッ

カーができる、この幸せ。子供たちの喜びよ

うといたら！

えひめFCとわたし

わたしは^{しほ}ばにすんでいます。小学二年生です。
パパがえひめ出しんなのでえひめFCをおう
えんしています。しあいにはパパにさそわれ
ていきます。しあいには電車とバスで行きま
す。

まつ山にいているときは「おじいちゃん
とおばあちゃん。パパとママとおじさんへ行
きます。いきかたはバスでいきます。バスに
のっている時間がながいのでねむくなります。
スワジラムのとなりはどうぶつえんがあるの
でいったついでにたまにいきます。ピースが
いちばん好きです。

しあい会場にいらるときに雨がふるとヤです。
ヤたいがすきです。かきごおりをかってく
れました。からあげもほしいとおもいました。
えひめFCがかつとうれしいです。ママと
パパとおじいちゃんとおばあちゃんとおじい
さんでいくのはサッカしかしだけなのでサッカが

すぎです。

「わたしはサカカカーをやるのもすぎです。

しあいかいじやうにはオーレくんとたまひ

めちゃんといよかんたくんがいます。たまひ

めちゃんが大好きです。たまひめちゃんとま

たあいたいな。

と	の	よ	実	を		ろ		に	込	ノ	柄	の	い	同	だ		場		「
ア	ス	う	家	連	愛	う		年	ん	が	で	印	印	窓	か		所	私	誇
ウ	タ	に	の	れ	媛	。		に	で	生	い	象	象	会	か		に	は	る
エ	ジ	な	近	て	F			一	いた	ま	た	と	を	に	ら		住	現	べ
イ	ア	り	所	愛	C			度	。	れ	。	言	持	参	実		ん	在	き
観	ム	、	の	媛	の			帰	よ	て	。	え	っ	加	家		で	、	故
戦	に	地	愛	へ	ホ			省	っ	く	。	ば	っ	す	に		い	生	郷
を	誘	元	媛	年	ー			し	て	る	こ	「	て	る	帰		る	ま	「
し	い	の	F	に	ム			て	愛	こ	と	旧	い	こ	省		。	れ	
、	、	同	C	複	の			を	媛	は	は	態	な	と	し			故	
誘	関	級	サ	数	試			知	の	な	い	然	か	も	た			郷	
わ	東	生	ポ	回	合			っ	実	い	。	と	っ	な	か			の	
れ	の	を	ー	帰	を			た	家	私	。	し	ら	か	っ			愛	
る	サ	試	タ	る	見			今	に	は	。	た	か	た	。			媛	
ま	ポ	合	ー	よ	る			で	申	そ	。	保	ら	。				を	
ま	ー	の	と	う	た			は	し	う	。	守	新	。			離		
に	タ	あ	交	に	め			ど	訳	思	。	的	し	。			れ		
関	ー	る	流	な	に			う	程	い	。	な	い	。			て		
東	仲	砥	す	り	妻			だ	度	い	。	土	媛				遠		
の	間	部	る	、	子			。				地		よ			い		

。

う	土			っ	で	る	の	た	な	た	地	グ		ラ	て	C	家		愛
存	愛	こ	愛	て	の	。正	市	公	い	と	元	ク	そ	ブ	い	の	の	そ	媛
在	を	の	媛	い	自	直私	民	共	の	い	の	ラ	し	に	る	ホ	の	も	県
に	目	よ	F	る	ら	は	の	事	に	う	市	て	は	人	事	ー	両	も	人
本	覚	う	C	偉	の	愛	手	業	で	事	民	な	と	と	だ	ム	が	も	会
当	め	に	が	大	不	媛	に	の	あ	実	の	愛	人	人	け	ゲ	我	生	に
に	さ	愚	あ	な	明	県	よ	副	。愛	だ	手	F	を	を	でも	ー	々	来	顔
感	せ	か	る	先	を	人	心	産	媛	。ロ	に	つ	つ	も	画	と	と	出	を
謝	て	な	か	輩	心	を	よ	物	F	ク	よ	な	な	画	期	一	不	す	出
し	く	私	ら	方	り	な	恥	で	C	な	つ	い	ぐ	的	だ	精	ま	出	す
て	れ	に	愛	に	じ	め	、	は	は	箱	て	と	機	だ	で	人	で	ま	ま
い	た	も	媛	敬	、	て	地	な	天	へ	愛	っ	能	。地	付	付	に	な	な
る	一	故	が	意	元	い	元	く	か	ス	媛	の	が	元	き	き	な	っ	っ
	愛	郷	好	を	で	。こ	ク	、	ら	タ	県	驚	確	サ	合	い	な	っ	た
	媛	への	きに	表	が	れ	ラ	正	降	ジ	に	きは	実	ッ	い	の	な	っ	た
	F	誇	な	した	ん	。こ	ブ	真	っ	ア	も	は	に	カ	悪	悪	な	っ	た
	C	り	な	たい	ば	これ	で	正	て	ム	た	J	あ	ー	い	い	な	っ	た
	ー	と	な	い		ま	あ	銘	き)	ら	リ	る	ク	実	F	媛	実	。
	と	郷	っ					地			さ	ー				F	F		
	い		。					元			れ								

「鮮と笑顔をありがとう。」

愛媛FCとの出会いには、4年前のお盆、岡山に嫁いぐ9年目の夏でした。

愛媛へ帰省していった私達家族に、弟が「サッカリー見に行こうや」と誘ってくれたのが始まりでした。それまでサッカーに全く興味が無く、ルールも愛媛FCの選手もほとんどわからず、本に観戦に行っただけですが、まず子供達は屋台やお店が沢山あるお祭りの様な雰囲気で大興奮、私達はスリッパの熱気やサカリータの熱い応援に大興奮。愛媛にいても、「愛媛」なんて叫ぶことはほとんどないけれど、この日から「我度、愛媛」と叫んだことか。その後、サッカーのおもしろさにとりつかれた私達は、岡山にもサッカー入りを狙い、地味リーグで奮闘しているサッカーチームがある事を知り、応援する事に。それから数年、岡山のチームは念願のサッカー入りを果たし、愛媛FCと対戦する事になりました。

淳気者の様に2つのキーを応接しているけれど、応接すればする程サツカリーの聲も、奥深さを知り、増々応接するようになって、気が付くとサツカリーを通して愛媛にも岡山にもとても大きな人の輪ができていきました。

二人の娘も、サツカリーが大好きになり、サツカリーは見るものではなく、応接するものとはばかりに90分間跳んではおて、声を出します。何より、点が入った時、周りにいる知らない人達とハイタッチしたり、抱きあったりする瞬間が大好き。と言います。小学校では、他の女子達と話しが合わず辛い思いをした事もあった様だけど、スタジアムの熱気がそんな事を吹き飛ばしてくるみたいです。

年齢が上がれば、親と一緒に行動しなくなる。おどと、うことを聞いたりしますが、我家には全く関係ありません。サツカリーとワケや強く話ばれよう。そんな気がしてきます。後でも覚めてもサツカリー、サツカリーの親家です。

もし、あの日サツカーを見に行っていたら、どうなっていたか知らんて、今サツカリーの悪い生活が想像できはいいのと同じで、全く想像できませんが、もう少し貯金はあ、たかな。それでも、家族で同じ時間を共有できるとこのすばらしさは、お金に換えられない物があると思えます。

今も娘達がカレンジャーを見ワケ試合の日を指折り数えていきます。そして今、とても楽しみにしているのが、家族が2手に分かれる事から周囲に、家庭内ダービーとも言われている、愛媛FC対アズーノ岡山の試合に行くことです。僕何日かないと思え、次女がカレンジャーにらめ、こしてります。

私達の声援が選手達の力になると信じて、一歩でも一センチでも前へ行、てほしいと願っています。今日も声を枯らしレカ一杆跳びはあります。私達家族に素直に時間と思えば、おもしろい、愛媛FCとサツカリーに感謝しはから。

私達家族に絆と笑顔をありがとう。愛媛FC

岡山県在中 女性 36歳

観戦歴 5年目に入

遠い街から。

私は栃木に住んでいてあまり観戦に行けません。

仕事がとても忙しいけど、関東の試合は出来るだけ観戦しています。

いざ試合が始まり、選手がピッチで走り回って、どんなに疲れても勝利に向けて更に走っている姿を見ると

私も頑張らなきゃ！！って思います。

それは試合の結果では無く、選手の一生懸命に頑張っている姿だけで十分です。

愛媛は遠く、練習観戦などに行けないので、選手がピッチで元気に一生懸命走ってる姿を生で見るだけで、私は元気を貰えます。

いつかは遠い愛媛に行ってホームスタジアムで生観戦したいです。

栃木県 須藤和子 愛媛観戦歴2年

「先祖がとりもつ縁・前のみを見つめ歩む」

私が愛媛FCと出会ったのは4年ほど前だ。先祖のお墓が松山にあるという縁で、お墓参りを兼ねて松山に行った際、愛媛出身の友人とニンジアスタジアムに出向いた。J2の試合を見たのはそれが初めてだったと思う。いつも平常心を失わない友人が、愛媛FCが点をとった時に見せたガッツポーズは今でも忘れられない。熱い思いが私に伝わった瞬間だ。

ここまで人を熱くできる愛媛FCとは何ぞや？

当時の私は少なからず傷ついていた。しかし、試合後、友人の紹介でサッカーに熱い思いを持った方々と知り合いになって、愛媛FCがJ2に昇格するまでの努力や、J1昇格を目指し選手だけでなく愛媛FCを取り巻く人々全員が努力する様子を聞いて、「前のみを見つめ歩む」秋山兄弟、子規より受け継がれている愛媛県人気質の神髄を見た気がした。

「私にも、そういう血が通っている。」そう信じることで、私も未来が開けた気がする。

合		ま	み	記	サ	ン	れ	ス		ら	グ	知	い	と			あ		
。	す	し	た	を	ッ	ト	た	ツ	新	っ	カ	ら	。	が			る	「	「
し	っ	た	い	振	カ	コ	手	ア	居	と	ズ	な	地	な		ん	愛	「	「
か	か	。	な	り	ー	ー	作	ー	浜	聴	の	い	元	い	や	媛	「	「	2
し	り		応	返	好	ル	り	。	の	いた	チ	程	に	。	け	F	「	「	0
連	座		援	る	き	を	の	笑	サ	な	ー	度	プ	何	ど	C	「	「	0
れ	っ		を	と	そ	教	し	顔	ポ	。	ム	で	ロ	人	、	の	「	「	7
て	て		教	「	う	え	お	の	ー		が	し	サ	で	今	試	「	「	年
行	観		え	N	ー	て	り	素	タ		愛	た	ッ	の	合	を	「	「	9
か	る		て	i	と	く	。	敵	ー		媛	。	カ	私	を	観	「	「	月
れ	も		も	p	思	れ	応	な	グ		に	あ	ー	の	に	行	「	「	2
た	の		ら	p	え	た	援	女	ル		来	っ	チ	原	く	バ	「	「	3
の	だ		っ	o	る	「	に	の	ー		た	、	ー	点	バス	ス	「	「	日
は	と		た	n	男	あ	欠	子	プ		は	そ	ム	で	ス	ツ	「	「	「
「	思		「	チ	達	ー	か	が	が		ラ	う	が	す	ア	「	「	「	「
ゴ	っ		と	ヤ	。	、	せ	手	企		ジ	い	あ	ら	「	「	「	「	「
ー	て		書	チ	当	こ	な	渡	画		オ	え	る	な	「	「	「	「	「
ル	い		い	ヤ	時	の	い	し	し		で	ば	事	こ	「	「	「	「	「
裏	た		て	チ	の	人	チ	て	た		ち	キ	す	こ	「	「	「	「	「
「	試		い	ヤ	日	達	ヤ	く	バ			ン	ら	こ	「	「	「	「	「

「	し		た	ば	く	ら		「	も	な	た			い		い		所	と
〇	た	そ	。	す	な	絶	愛	「	み	っ	。	ス	そ	ま	私	ス	そ	で	呼
〇	。	の		れ	り	対	媛	」	ま	た	結	タ	れ	し	が	の	し	ば	
選		中		違	ま	知	に	仲	せ	婚	ジ	か	た	誘	次	の	た	れ	
手		の		っ	し	り	新	間	ん	を	ア	ら	。	わ	試	本	。	る	
が		方		て	た	合	加	で	で	機	ム	今	れ	合	当	場	所		
、		か		も	。	う	入	す	し	に	で	年	た	か	に	所	。		
愛		ら		い	愛	事	と	。	。	愛	十	で	よ	ら	楽	と	に		
媛		こ		な	媛	が	な		今	媛	数	5	う	し	に	か	か		
F		ん		い	F	な	っ		で	を	年	シ	に	、	な	く	ア		
C		な		筈	C	い	た		今	離	前	ー	、	つ	っ	ア	ツ		
を		メ		の	を	で	選		は	い	の	ズ	た	か	た	く	く		
選		ー		人	応	あ	手		家	つ	同	ン	く	ら	さ	ん	て		
ん		ル		達	援	ろ	が		族	か	僚	目	の	か	の	い	い		
で		を		と	し	う	縁		み	ら	と	を	友	疎	達	ま	し		
く		いた		出	て	人	で		ん	か	は	数	を	遠	を	し	。		
れ		ただ		会	い	と	、		な	疎	思	え	誘	を	買	。	。		
て		き		い	ま	も	普		と	遠	っ	ま	を	。	。	。	。		
よ		ま		ま	し	仲	通		サ	に	っ	す	。						
						良	な		ポ										

				な	と	こ	る	行		な	ば	に	ア	ス		の		良	か
		「	こ	け	も	と	こ	く	車	い	・	に	ー	ツ		チ	縁	か	っ
	新	俺	れ	れ	、	も	と	こ	で	と	・	ジ	を	ア	の	ー	が	っ	た
	居	た	か	ば	「	、	も	と	函	思	・	リ	企	ー	日	ム	つ	た	。
	浜	ち	ら	あ	愛	い	、	、	館	い	。	ー	画	に	、	を	な	。	愛
	市	や	も	り	媛	ろ	い	月	に	ま	今	し	し	誘	応	あ	が	媛	
	在	愛	、	え	「	ん	ろ	曜	行	す	の	て	て	っ	援	の		F	
	住	媛	大	な	を	な	ん	日	く	。	こ	く	れ	て	す	。		C	
サ		が	き	い	誇	方	な	に	こ		と	れ	て	い	。	素		が	
ポ	ま	大	な	こ	れ	に	に	な	も		、	、	い	な	敵	友	○	○	
ー	も	好	笑	と	る	人	声	っ	、		2	な	な	け	な	人		選	
タ	な	き	顔	で	こ	た	を	た	週		週	け	れ	れ	事	と		手	
ー	く	さ	で	す	も	ち	掛	ら	連		続	ば	、	ば	で	な		を	
歴	三	！	叫	。	、	と	け	声	で		九	、	バ	、	す	り		選	
	十	「	び		愛	笑	て	が	九		州	バ	ス	。	、	ひ		ん	
	七		ま		媛	い	い	枯	州		に	ス	ツ		と	と		で	
	歳		す		F	あ	た	れ	に						つ			く	
			！		C	う	だ	て										れ	
			！		が	こ	く	い											て

横 浜 市 在 住 ・ 愛 媛 F C 応 援 歴 6 年	け ど ー で も J の あ る 生 活 は や め ら れ ま せ ん 。	の 会 話 も こ れ ま た 楽 し ー 負 け た 時 は お 通 夜 だ	車 等 あ ら ゆ る 交 通 手 段 を 使 っ て の 遠 征 。道 中	リ ー グ 戦 や 天 皇 杯 、 飛 行 機 、 電 車 、 夜 行 バ ス	き と い う こ と で 敵 味 方 関 係 な く 話 が で き る 。	行 く 先 々 で 馴 染 み の 店 も 出 来 、 サ ッ カ ー が 好	J リ ー グ を 応 援 す る こ と で 日 本 各 地 を 訪 れ	る な ん て 。1 0 年 前 に は 考 え ら れ な か っ た 。	ッ カ ー を 通 じ て 沢 山 の 方 た ち と お 友 達 に な れ	呑 み な が ら 話 し 込 む 。楽 し い 日 々 で し た 。サ	応 援 を し て 、試 合 後 は 気 の 合 っ た 仲 間 た ち と	回 松 山 を 訪 れ る こ と に な ろ う と は 。サ ッ カ ー	っ た こ と が な く 、ま さ か 5 年 も の 間 、月 に 一	き 合 い が 始 ま り ま し た 。愛 媛 に は そ れ ま で 行	C に レ ン タ ル 移 籍 。そ れ か ら 愛 媛 F C と の 付	6 年 の 5 月 に 私 の 応 援 し て い た 選 手 が 愛 媛 F	の ス タ ジ ア ム 問 題 。そ し て 、昇 格 し た 2 0 0	私 が 最 初 に 愛 媛 F C を 知 っ た の は 、昇 格 時	愛 媛 に 通 っ た 5 年 間
---	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---

、

時計の針は 2004 年

金曜日の 3 時になると、お決まりの砥部に向かいます。

JFL 愛媛 FC の試合のライン引きボランティアマンに変身。

愛媛 FC の JAN さんと K 田さんと私の職人作業が始まります。
たまに引き間違えると、消すのに 1 時間以上(^_^;)かかる危険な仕事です。
ある時、センターサークルひきまちがえて、失神しそうになりました。(笑)

ともかく運営に人が足りない、時代でした。

ある時・・・どうしても看板を並べるのに人が足りない時
メルマガで看板並べてくれる人募集とメルマガを送ると。

愛媛県内からたくさんの有志が駆けつけてくれました。

その中に一人の小学生がいたのです。

なんとそのメルマガを見て

川内から 1 時間 30 分かけて砥部の陸上競技場まで歩いてきたのです。

10 歳にもなってない少年が、

「大好きな愛媛 FC のお手伝いをさせてほしい。」

「なにかできることないですか？」

「看板ならべるの手伝います。」

胸がジーンとなりました。

この少年がいたから、愛媛 FC J21 年目まで 4 年間

愛媛 FC をボランティアとして応援できたのです。

「理屈を超えて、応援しよう」と

時代を動かすのは、純粋な少年・少女の心だと思います。

マグ渡部

た	間		エ	ん		は		よ	と	エ		い	で	ら		と	シ		
。	を	皆	イ	で	交	本	そ	う	考	イ	で	か	は	れ	そ	に	ー	私	
	無	さ	の	く	通	当	の	な	え	の	も	と	愛	な	の	な	ズ	は	
	事	ん	地	だ	手	に	と	気	た	地	、	考	媛	い	と	り	ン	、	
	過	の	：	さ	段	お	き	が	と	や	発	え	F	と	ま	ま	の	2	
	ご	優	楽	り	を	世	に	し	き	J	想	た	C	い	し	で	間	0	
	し	し	し	、	持	話	、	ま	に	1	を	時	の	う	た	転	0		
	、	さ	か	一	ち	に	関	し	目	の	転	期	応	こ	た	換	7		
	愛	に	つ	緒	合	り	東	た	の	合	も	援	と	。	し	都	年		
	媛	助	た	に	わ	ま	の	。	前	観	あ	が	出	シ		合	シ		
	に	け	な	車	せ	し	サ		の	戦	り	来	な	ョ		で	ー		
	戻	ら	あ	に	て	た	ポ		霧	に	ま	く	な	ッ		な	ズ		
	る	れ	：	乗	い	。	ー		が	行	し	な	る	ク	か	ン	か		
	こ	、		っ	な		タ		す	け	た	る	の	で	な	か	ら		
	と	東		て	い		ー		ー	な	い	な	で	は	か	。	2		
	が	京		行	私		の		っ	い	ア	な	は	な	か		0		
	で	で		っ	を		皆		と	ア	ウ	な	は	な	か		0		
	き	の		た	呼		さん		晴	ウ		な	は	な	か		0		
	ま	3		ア	び		に		れ			な	は	な	か		9		
	し	年		ウ	込				た			な	は	な	か		年		

い		す			を		相		ン		し		ら		媛		き	っ	
ス	そ	。	私	楽	目	つ	手	愛	が	そ	負	そ	っ	そ	F	し	て	た	も
タ	し		は	し	の	ま	が	媛	あ	の	け	中	た	う	C	か	い	ら	し
ジ	て		こ	そ	当	り	勝	が	り	中	る	で	ん	い	が	し	な	、	、
ア	、		の	う	た	大	つ	負	ま	、	試	、	だ	う	あ	、	か	私	関
ム	い		光	な	り	人	こ	け	す	と	合	思	と	意	っ	ら	は	東	
が	つ		景	相	に	数	と	る	。	い	も	い	。	味	た	楽	の	サ	
出	の		を	手	す	で	。	と		う	多	ま		で	か	し	い	ポ	
来	日		忘	チ	る	の		い		こ	く	し	、	ら	こ	い	東	ー	
て	か		れ	ーム	こ	喜		こ		と	あ	。	愛	そ	そ	れ	京	タ	
、	愛		る	ム	と	び		は		は	り		媛	で	で	ま	生	ー	
そ	媛		こ	サ	な	の		、		ホ	ま		F	き	見	せ	活	の	
こ	の		と	ポ	い	チ		、		ー	し		C	た	れ	ん	を	皆	
で	街		は	ー	な	ャ		、		ン	。		か	こ	ば	。	送	さ	
勝	中		な	タ	い	ン		、		ト			ら	と	、	る	こ	ん	
利	に		い	：	と	ト		、		や			元	：	こ	こ	と	が	
の	素		思		思	ダ		、		ン			気		れ	と	が	い	
チ	晴		い		ま	ン		、		ス			を		は	が	な	な	
ヤ	ら		ま					、					も		愛	で	か	か	
ン	し							、											

「愛媛FCに時の流れを感じます」

あれは、2005年の12月頃だったと思います。

知り合いから愛媛FCがJリーグに参入するに当たり、社内向けにJリーグのことで何か書いて欲しいと頼まれました。

とりたてて何かを書けるようなネタもなかったのですが、どうすればスタジアムに来てもらえるかなあということ考えた結果、1人で参加するよりも、家族で参加したら楽しいかなという思いもあって書かせていただいたものです。

あれから5年半…

息子たちが大きくなるとともに、一緒に応援する機会も減ってきました。

そのような中、先日の湘南ベルマーレ戦で2人の息子と一緒に観戦しました。

久しぶりでしたが、新鮮な気持ちと懐かしい気持ちが交錯しつつ、心地よさを覚えました。

「愛媛FCに元気をもらった」

この企画を知ったときに何か書けるものはないだろうか…

そこで思い出したのがこの社内向けに書いた文章でした。

今思うと、拙い文章だなあと思いますが、私の中で思い出のひとつとして残っていますので、原文ママにしておきます。

「親子で観戦することの大切さ」

愛媛FCの試合を観に行くようになったのは、JFL昇格の2001年からなので足掛け5年になるが、我が子を連れて行くようになったのは3年ほどくらい前からだったと記憶している。

初期の頃は、自分だけで観戦することが多かった。というのは、正直、子どもを連れて行くと、**試合観戦に集中できない**。これは仕方のないことと常々自分に言い聞かせているが、子どもからの様々な要求には容赦というものがない。

前半20分頃に決まって始まる「お腹がすいた！のどが渴いた！暑い！寒い！攻撃」はいつものこと。加えて、長男と二男（ツートップ）が揃うと必ず繰り出される得意技「お父さん、しりとりしよー攻撃」や「食べ物ひっくり返し攻撃」という〈カウンター〉が炸裂する。

私にとって、試合観戦とひっくり返った食べ物の処理という同時作業は常に困難を極めており、迅速な処理（セーフティ・ファースト）を試みるも、下を向いている間に過去三

度ゴールシーンを見逃している。（一度は我を忘れて、「拾って食べろ」と言ったこともあるが……）

そんな私が、懲りもせず、子どもを連れて行くのは何故か？それは、何と言っても子どもとの間に「共通の話題」ができるからである。

愛媛FCの試合での気になる選手の調子から始まってスタジアムの雰囲気や試合内容・結果がどうこう等々。一緒に観に行くことでしか発生しない共通な話題が、普段の子どもとのコミュニケーション不足を解消してくれている。（と私は勝手に思っている。）
そういう意味でも「愛媛FC」は、私にとっていろいろなものを与えてくれる重要な存在なのである。

今年からは、J2に舞台を移し、東京ヴェルディや柏レイソルなど、有名チームと対戦することもあって、できることなら、アウェーにも行ってみたいと思っている。勿論、子どもを連れて……。ということで、皆さんも「親子で観戦」しに行ってみませんか？

最後に・・・試合中は勘弁して欲しいけど、早めに競技場に行ったときや帰りに渋滞に巻き込まれたときなど、結構（時間稼ぎに）役立つんですよ～。子どもとの「し・り・と・り」。

松山市在住 男性42歳 観戦歴10年

理	め		た	同	コ	歯		め	周	数		の	算	て	か	見		恐	か
事	て	当	す	時	を	を	で	そ	囲	日	思	で	入	実	と	事	過	縮	と
会	い	初	こ	に	吸	食	も	う	か	後	い	す	へ	現	思	に	去	で	考
で	た	は	と	愛	う	い	、	に	ら	の	つ	。	の	さ	撃	に	に	は	え
承	の	、	と	媛	こ	し	こ	な	の	9	い		思	せ	沈	幾	あ	た	
認	で	自	な	F	と	ば	れ	り	い	月	た		い	る	し	度	り	の	
さ	、	分	っ	C	な	っ	で	ま	ろ	2	ら		が	こ	、	と	ま	が	
れ	嬉	の	た	も	く	て	愛	し	い	7	勢		通	と	禁	な	す	禁	
た	し	勝	の	優	2	頑	媛	た	ろ	日	い		じ	が	煙	く	が	煙	
直	く	手	で	勝	0	張	F	。	な	に	の		る	で	は	も	：	で	
後	て	で	し	と	0	っ	C		誘	禁	あ		の	き	は	う	、	し	
に	抑	「	た	い	5	た	が		惑	煙	る		で	れ	無	無	、	た	
タ	え	J	。	う	シ	結	J		が	を	間		は	を	理	ジ		。	
バ	の	参		形	ー	果	に		あ	始	に		な	強	な	し		個	
コ	効	入		で	ズ	、	行		り	め	と		い	い	の	て		人	
を	か	ま		J	ン	何	け		、	ま	佐		か	意	で	は		的	
購	な	で		参	を	と	る		何	し	川		と	志	も	の		な	
入	い	「		入	終	か	な		回	た	戦		考	を	の			話	
し	私	と		を	え	タ	ら		も	が	か		え	も	の			で	
ま	は	決		果	、	バ	と		諦	、	ら		た	つ	い				

「	て	封		て	た	の		だ	す			の		な		す	け		し
次	：	を	そ	応	い	で	そ	も	。	お	あ	で	と	：	「	が	て	「	た
は		開	し	援	と	、	う	ん	（	か	れ	す	い		：	一	一	。	
J		け	て	し	思	愛	い	）	だ	か	か	。	う		次	本	さ	そ	
1		て	、	た	っ	媛	う		っ	ら	、	こ		は	取	て	し	し	
優		一	そ	い	て	F	意		て	6	年	と		J	り	久	て	て	
勝		本	の	と	い	C	味		愛	近	、	で		1	出	し	、	、	
ま		取	曉	思	ま	に	で		媛	く	出	、		に	し	火	吸	、	
で		り	は	い	す	は	は		F	が	し	出		に	、	を	お	、	
か		出	、	ま	し	、	、		C	J	た	し		吸	つ	う	う	、	
な		し	ま	す	、	J	早		が	1	タ	タ		お	け	け	か	、	
：		、	た	。	そ	1	く		J	に	バ	バ		り	よ	よ	な	あ	
「		火	タ		う	に	タ		1	行	コ	コ		つ	う	う	あ	「	
		を	バ		な	上	バ		に	っ	を	を		と	と	と	と	と	
		つ	コ		る	が	コ		行	と	買	元		し	し	し	し	し	
		け	を		よ	っ	を		っ	続	い	に		た	た	た	た	た	
		よ	買		う	て	た		て	い	て	戻		の	の	の	の	の	
		う	っ		頑	も	い		な	お	お	し		で	で	で	で	で	
		と	て		張	ら	たい		い	り	り	た		開	開	開	開	開	
		し			っ	い	い		ん	ま	ま	た							

「あの日静岡で見た虹の架け橋」

Jリーグの素晴らしさを初体感した日、1999年5月5日。5万人超の国立が、スーパーゴールにより沸騰し感動しました。22年の松山生活から東京で就職して3年目、「愛媛にもJリーグがあればなあ」友人との夕食中、ふと思ったものです。

2001年、愛媛のチームが東京に来ると聞き、たまらず西が丘に行きました。数人のサポーター。何でもやる選手たち。自分が応援しているJ1のチームとの差を感じました。でも、これから作られる愛媛産のサッカーチームに興味を持ちました。

本気でJリーグに上がりたいと伝え聞いた

2005年、関東の試合には足しげく通いました。だけどあまり見応えのある試合は見られません。「本気なのか？」と疑いもしました。そんな中、ホームでホンダFCに後半ロスタイムで同点にされる試合を見ました。本当に悔しそうな選手たち、それを支えようと力

の限り声を張り上げるサポーターたち。娯楽
としてのスポーツをはるかに超えたものを感じ
ました。そして、思いました。自分も行動
しなければならぬ！と。出来るだけ関東で
の試合には応援に行くようになりました。仲
間も出来ました。愛媛の仲間、東京に来て初
めてでした。愛媛FCのおかげです。
半年後、ホンダFCのホームに200人以上の愛
媛県人が集結しました。誰も何も言わないけ
れど、心は一つでした。浜松都田の空に掛か
ったJへの虹の架け橋をみんなで見つめた瞬間、
誰彼構わずハグし、涙を流しました。自分の
知っているJリーグが、愛媛にも出来るん
だ、と。
今でも思います。あの時は200人だったけ
ど、今度の虹の架け橋は、もっともっとたく
さんの人と見たい。そして、たくさんの愛媛
県を愛する人たちを喜びを共有したい、と。
そう思いながらスタジアムに行っています。
松山市在住 36歳 男性

「愛媛FCを好きになると、愛媛がもっと好きになる」

学生時代と社会人時代を合わせて14年。

これは私が愛媛で暮らしている年数です。

人生の半分にはまだ至っていませんが、家を構え、子どもを授かり、このまま愛媛に骨を埋めようと思っています。

でも生まれ・育ちが大阪なので、愛媛では「よそ者」として接されることも少なからずあり、もっと愛媛とのつながりを深くしたいという想いを抱いていました。

そんなときに出会ったのが愛媛FCでした。

『RUN』（小宮良之・著）の主人公・福田健二選手が見たくてスタジアムに足を運んだのがきっかけでしたが、県外出身の選手たちが愛媛のために懸命に戦っている姿に強いシンパシーを感じました。

特に同じ大阪出身の川北裕介選手には、プレーはもちろん、練習態度やサポーターへの丁寧な対応など、全てにおいて真摯な姿勢に尊敬の念を抱きました。

また、スタジアムで偶然顔を合わせた大学時代の後輩や仕事での知り合いとは愛媛FCの話題で盛り上がるようになり、親交が深くなりました。

そして、愛媛FCと共に愛媛を盛り上げようと活動している方々をはじめ、愛媛FCを通じた新たな出会いも数多くありました。

スタジアムでは生粋の愛媛県民も、よそ者も関係ありません。共に愛媛FCを応援することで、一体感、連帯感を感じられることが非常に心地よいです。

愛媛FCは私に愛媛への一層の愛着と深いつながりをもたらしてくれました。

今では県外で仕事のプレゼンをする際に愛媛FCのユニフォームを着用して愛媛をアピールするまでに至りました。

最近、転勤で県外から引っ越してきた人にこう言って愛媛FCの試合の観戦を勧めています。

「愛媛FCを好きになると、愛媛がもっと好きになりますよ！」

愛媛県松山市 男性 35歳 愛媛FC観戦歴2年目

リアル一平くんはダメよ！

私は関東地方に住んでいるサッカー好き（女性）で、イベント好きなブルームのチームを応援しています。一緒に観戦に行く彼は『三菱ダイヤモンドサッカー』を見て育ったサッカー好き、地元のオレンジのチームを応援しており、JリーグだけでなくACL決勝やナビスコ決勝、JFLなど興味のある試合も見に行きます。野球観戦も好きですよ。彼は少し前、田んぼがたくさんある地方都市で働いていました。そこは梅雨になると田んぼから道路に出てきた、たくさんの蛙が車の犠牲になるそうで、そのトラウマから蛙がとても苦手です。私は大の蛙好き。縁起が良くて可愛くて、春に蛙の卵を見つけると、毎週休みに卵がオタマジヤクシに孵るのを観察しに行く位です。そんな私ですから、どうしても噂の一平くんに会いたくて会いたくて……。。

「ねえ、ジエブに一平くん来るけど見に行か

ですが、一生懸命身振り手振りで答えてくれたその姿に感動です。

そんな私と三柑、一平くんの様子を横でじつと眺めていた彼。

しばらくするとつば九郎が出てきて、一平くんをいじめはじめました。すると……

「なんでつば九郎は一平くんをいじめるんだ！ あんなに一生懸命なのに！ 一平くんをいじめるなよ。」

と本気で怒っている様子。

そうなんです。三柑と一平くんが、彼の心を動かした瞬間でした。

あんなに蛙が嫌いだったのに！ メールに一平くんの写真を添付するだけで怒っていた彼なのに。

それ程までに、三柑と一平くんの一生懸命さが伝わってくる対面でした。

その後彼は

「蛙は嫌いだけど一平くんだけは許す！ 一平くんは一生懸命だから」

と言っています。

先日、イベント好きなブルーのチームの試合に行った時『日本マスコット級タイトル決定戦（未公認）』のポスター発見。

「これは絶対行かなきゃ」

と試合会場で指定席券を購入した彼。いつもは約束していても待たされる事も多く、遅くまでかかる仕事も、タイトル戦当日は定時で終わらせ、等々キャリアナに駆けつけた彼。

そうなんです。三柑と一平くんの一生懸命さが彼をここまで夢中にしています。そして、そんな彼を見ている私は、三柑と一平くんを通して、愛媛FCから元気と喜びをもらっているのですね。まだ一度もスタジアムにお邪魔していませんが、いつかホームで三柑と一平くんにお会いしたいと思います。

千葉県市川市 女性 四六才

愛媛の観戦歴0年

「故郷を取り戻してくれた愛媛FC」

私は半ば故郷を捨てた男でした。浪人、大学を経て東京で就職しましたが、忙しさにかまけて慶弔事でもなければ田舎に帰らない状況がほぼ20年近く続いていました。

サッカーは中高と部活で親しみ、ダイヤモンドサッカーとワールドカップ放送にかじりつくほど好んでいましたので、愛媛FCの存在はある程度認識しており、天皇杯の関東での試合には出かけていくようにしていました。

そんななか、2005年秋、愛媛FCが昇格に向けてとても苦勞しているというニュースに触れ、何かに吸い寄せられるように新幹線に乗って都田村（廣澤虎造の浪曲が好きな縁もあったかもしれませんが）に出かけていきました。そこで私の奥底にあったスイッチが入ったのだと思います。自分は今まで何をしていたのだろう、なにか愛媛のために行動しなければ、との思いに駆られ、それ以降、ままたのどのようなことばかりではありますが、愛

媛FCをサポートする活動に勤しむようになり
ました。
いつも思うのは、よくこの愛媛FCを創り、
育て、Jリーグにまで引き上げてくれた、と
いう様々な関係者の方々、サポーターの方々
などへの感謝の念です。Jリーグに参加した
くても参加できない地域、それもサッカー王
国と言われる地域が多数ある中、南宇和高校
の輝かしい歴史があったとは言え、野球王国
のこの地方に置いて、Jリーグクラブが存在
していることは奇跡だと思います。先達の
方々の筆舌に尽くしがたいご苦勞に想いを馳
せながら、遅れてきた分、少しでもサポート
しなければという思いで約6年間、過ごして
きました。
そのおかげで、頻繁に愛媛に戻るようにな
り、それまでほとんど無かった愛媛の人たち
との大切な繋がりがたくさんできました。こ
の歳で言うのは少し憚られますが、愛媛FCの
おかげで得た財産だと思います。愛媛FCは私

に故郷を取り戻してくれました。

さらに強く思うのは、このJクラブを絶対に無くしてはいけない、そのリスクは出来る限り排除されなければいけない、ということです。間もなくJFLとの入れ替えが始まると、順位次第では降格があり得て、一度降格すると再昇格することは並大抵ではないと思います。そのリスクに対し、私達にできること、それは一人でも多くの方にスタジアムに足を運んで貰うように働きかけることだと思います。そのために自分にできることを考え、思い悩む毎日です。

一方、来年から始まるプレーオフはJ2リーグ昇格以来、最大の希望です。6位に入れば昇格の可能性があり、バルバリッチ監督ならば必ずやってくれるものと思います。去年でもあと2勝で6位のラインだったわけです。イングランドでは昨年、2部リーグでぎりぎり6位だったみかん色の小さなクラブがプレーオフで見事昇格、プレミアリーグでもリバプ

一ルなど強豪を破る快進撃で夢を見せてくれました。 「坂の上のJ1」に昇格すれば、いろいろな面で、確実に愛媛は格段に元気になります。 それは過去の色々な事例からも明らかでしょう。

ただ、報道によると、今のスタジアムでJ1に挑む権利は与えられない可能性が高いとされています。 6位に入ってもプレーオフに出場できないのです。 こんな地域活性化のチャンス逃すとしたらそれはとんでもなく勿体ない、残念なことだと思います。 愛媛FCを愛する私達は、今こそ、Jリーグクラブのある意義・効用を広く訴え、各方面の方々のご理解をいただけるように出来る限りのことをしなければ、と焦る毎日です。

東京都在住 46歳男性 応援歴6年

僕は愛媛 FC が本当に J2 リーグに昇格してくれた事を本当に嬉しく思っています。

2005 年の JFL ホーム最終戦勝利での優勝・昇格決定には本当に感激しました。

雹が降り、降雨の厳寒の中でしたが、友近さんの先制ゴール、永富選手の追加点が決まり、この時の感激・喜びは何ものにも代え難く、至上の喜びで純粋な喜びでもありました。

愛媛 FC が JFL より J2 に昇格してくれたお陰で、2006 年の J2 開幕に伴い、本当に地元
に愛する事の出来るプロチームが出来た事に万感の思いでした。

この数々の喜びをとどめておきたくて日記を書くようになりました。

愛媛 FC の良いところも悪いところも全てをありのままに受け止めて行きたいと思っています。

2001 年より愛媛 FC を応援している自分にとっては、2005 年最終節勝利での優勝と J2
昇格確定を決定したこの豪雨の試合の事を、生涯忘れる事は無いと思います。

これからも…

胸のすくようなドリブルやシュートでゴールを奪い、気迫あふれるプレーで感激を、勝利
の喜びを与えてくれる事を信じています。

感激を喜びを与えてくれて本当にありがとうございます。

これからも…

魂を込めて応援します。

愛媛 FC 観戦暦 11 年

男。45 歳。新居浜市在住。

勇気と元気と愛を

私は愛媛 FC の選手が大好きです。愛媛 FC の選手たちはみな個性的で、活発で興味深い選手たちばかりです。特に私が興味を持っている選手は、背番号 1 川北 裕介選手、背番号 27 齋藤 学選手です。この 2 人はチームの中でも、また別の意味での輝きを秘めた、チームに欠かせない存在です。

GK の川北選手はチームではいつも大活躍。ボールをとめること、チームのことをいつも考えていると思っています。GK は指示を出し、チームの信用を受ける人物。川北選手にはピッタリです。川北選手は心身共に強いサッカー選手です。

FW の齋藤選手はチームでは絶対的な存在。いつもゴールが決まるときには齋藤選手の姿があります。齋藤選手の並々ならぬ行動力はチーム全体をいつも盛り上げてくれます。試合では何が何でも勝つ！いつもそう強く思っているはず。

そんな愛媛 FC の選手たち、その選手たちの試合で私はいつも勇気と元気と愛をもらっています。ありがとう、愛媛 FC。

次は私たちの番！チームがどんよりした空気の際は私たち愛媛県民が勇気と元気を私たちの愛をお届けします。これからもがんばってください！

観戦歴 1 年半 女性 13 歳 東温市在住

娘の成長と共に・・・

「オ～レくん（ハート）たま媛ちゃん（ハート）」

試合前のイベントからハイテンションの娘。試合観戦では、サポーターと一緒に歌い、応援して、親子共々楽しんでます！試合後は毎回選手とキャラクターが応援席の前まで挨拶に来てくれるので、娘は最後までおおはしゃぎです。小さいながら大好きな選手もいて、「川北さーん（ハート）」と黄色い声援を送っています。

初めて観戦に行った頃は、まだ2歳。サッカーどころかスポーツを観るのも初めてでした。こんな小さな子が2時間も観れるのかな・・・と思っていたのですが、回数を重ねる毎にサッカーの面白さや選手たちが一生懸命プレイする姿、サポーターの熱い声援を自然と感じ取り、今では観戦前の準備を自分でするくらい観に行くのを楽しみにしています。

試合のときだけではなく、街のいたるところで見かけるポスターやのぼり、そしてラッピングバス。娘はそれらを見つけると、嬉しそうに教えてくれます。

小さい子を連れての観戦は難しいと思っていた私。試合を楽しんでいる娘を見ていると、公園や室内で一緒に遊ぶのもいいけど、親子で一つになり応援する楽しさもあるのだと気づきました。

娘が成長するにつれ、一緒に遊ぶ機会も少なくなるかもしれませんが、愛媛FCの応援を通していつまでも親子で楽しんでいけたら、と思っています。

観戦歴 1年半 女性 39歳 東温市在住

大好き

私は、最初、えひめ FC を知りませんでした。でも、連れて行ってもらってから、好きになりました。最初のほうは、ルールもわからなくて、試合を観に行く楽しさがわからなかったけれど、試合を何度もみていると、ルールもわかってきて、必死でおうえんするようになりました。

試合の前には広場でのイベントも楽しいものばかりです！

えひめ FC の選手は、みんなかっこよくて大好きです。特にすきなのが、内田選手と福田選手です。

時々試合にはいけなくて、さみしいときもありますが、これからも応援したいです！

がんばれ、えひめ FC！！

観戦歴 1 年半 女性 10 歳 東温市在住

福岡よりも大好きなえひめ FC

私は、福岡出身で、サッカーチームにはぜんぜんきょうみがありませんでした。でも、去年の試合を観てから、えひめ FC の大ファンになりました。

私が大好きな選手は、GK の川北選手と DF のせきね選手と、日本代表に入ったさいとう選手です。私のいところに、「福岡を捨ててもいいん？」て聞かれるくらい、えひめ FC が大好きです。

試合でえひめ FC と対戦相手が戦うとき、ハラハラしてんでいます。夏休みや春休み以外の試合はみれないけれど、福岡から応援しています。

私がいなくても、試合で必ず勝ってください！

えひめ FC 命です。これからもがんばってください！！

観戦歴 1 年半 女性 10 歳 福岡県在住

大	切	な	も	の																
私	が	始	め	て	愛	媛	F	C	の	試	合	を	見	た	の	は	、	J	リ	
ー	グ	昇	格	前	の	2	0	0	5	年	で	、	対	戦	相	手	は	ア	ロ	
ー	ズ	北	陸	だ	っ	た	。													
当	時	高	校	1	年	だ	っ	た	息	子	を	誘	い	、	二	人	で	県	総	
合	運	動	公	園	へ	見	に	行	っ	た	。									
J	リ	ー	グ	の	開	幕	と	共	に	サ	ッ	カ	ー	が	大	好	き	に	な	
っ	た	私	だ	っ	た	か	、	ア	マ	チ	ュ	ア	の	試	合	を	見	る	の	
は	そ	れ	が	始	め	て	だ	っ	た	。										
息	子	は	当	時	養	護	学	校	に	通	っ	て	い	た	。					
自	閉	症	と	い	う	心	の	病	に	家	族	全	員	で	闘	っ	て	い	た	。
し	ゃ	べ	る	事	が	苦	手	で	人	と	コ	ミ	ニ	イ	ケ	ー	シ	ョ	ン	
の	取	れ	な	い	息	子	。													
気	分	転	換	に	連	れ	て	行	っ	た	サ	ッ	カ	ー	だ	っ	た	が	、	
そ	こ	に	突	然	「	エ	ヒ	メ	」	と	い	う	明	り	が	射	し	て	き	
た	。																			
観	客	席	の	中	央	付	近	に	座	り	、	親	子	で	つ	ぶ	や	く	様	
に	発	し	た	「	エ	ッ	ヒ	ッ	メ	エ	フ	シ	ー	」	の	言	葉	が	、	
J	2	昇	格	が	色	濃	く	な	る	に	つ	れ	徐	々	に	大	き	な	声	

に	変	わ	り	、	2	0	0	6	年	に	は	声	が	涸	れ	る	ほ	ど	の
大	声	に	な	っ	た	。													
彼	は	明	ら	か	に	変	わ	っ	た	。									
声	を	出	す	歓	び	を	覚	え	た	。									
勝	っ	た	歓	び	を	知	り	、	負	け	た	悲	し	さ	を	知	っ	た	。
そ	し	て	応	援	す	る	場	所	も	徐	々	に	タイ	コ	へ	と	近	づ	
い	て	行	っ	た	。														
そ	こ	で	応	援	す	る	仲	間	を	知	っ	た	。	そ	し	て	そ	の	仲
間	と	関	わ	ろ	う	と	す	る	よ	う	に	な	っ	た	。				
郷	土	愛	媛	で	繋	が	っ	た	本	質	を	理	解	す	る	に	は	も	う
少	し	時	間	が	掛	か	る	か	も	知	れ	な	い	け	れ	ど	、	か	け
が	え	の	な	い	愛	媛	F	C	に	よ	っ	て	、	解	る	日	が	き	っ
と	来	る	と	思	う	。													
伊	予	市	4	7	歳	男	、	サ	ポ	ー	タ	ー	歴	7	年				

応援したいチームは愛媛FCです！

「愛媛っていつもこんな感じなの？」

友達が愛媛戦を観てみたいと言うので今年の四月×東京Vとの試合を一緒に観戦しました。競技場内では愛媛物産店が出ていたり、能田先生のサイン会、試合中オ～レくんがゴール裏に現われ一緒に観戦したりと、まるでホームにいるようなイベントが盛りだくさんでした。

私の生まれ育ち今も生活している街にもJリーグチームがあります。有名な選手が何人もいて、強豪チームで、やっているサッカーもおもしろい。だけど私は地元チームのサポーターにはなれなかった。地元の商店街やお店には選手たちのポスターがたくさん貼られているし、ペナントで飾られた道も年々増えている。だけど身近に感じないのだ。

私にはとても、とても〈遠い存在〉にしか

思えなかつた。

ある日、愛媛FCが地元で根付いた活動をしていることを知り興味を持った。関東のアウェイ戦、初めて愛媛FCの試合を観に行つた時の試合後の光景に私は驚いた。選手たちがとても楽しそうにサポーターの方々と話しをしていたり、写真を撮ったりする光景を。

試合を終えたばかりで、これから長い移動もあるにも関わらず。そこから伝わったことは選手はサポーターを大事にしているし、サポーターは選手が大好きだということ。

笑顔が溢れるその光景に〈遠い存在〉という言葉はあてはまらなかつた。その光景は観に行つた試合の毎試合後見られた。

話しを戻して東京V戦の試合後、愛媛を応援するようになって好きになつた選手を待っていた。好きな選手が近くを通つた時に声をかけて手紙を渡した。そこから友達やお知り合いのサポーターさん、近くで出待ちしてい

た愛媛サポーターさんの後押しもあって手紙
を渡すだけのはずが、レプユニにサインをい
ただき、写真撮影にも応じてもらいました。
その選手は笑顔で最後まで丁寧に対応してく
ださいました。ファンサービスを終え、その
選手を見送った後は近くでその様子を見てい
た愛媛サポーターさんまでもが、皆が笑顔に
なっていました。凄いな！とか、優しかった
ね！とか。試合で疲れていたにも関わらず、
他の選手の皆さんもファンサービスに応じて
いらっしやいました。
その時、初めて愛媛FCの試合を観に行っ
た時の光景を思い出しました。あの日から数
年経っても変わらない光景がとても嬉しかっ
た。
帰り道、友達が『私も好きなスポーツ選手
いるけど、あんな風に対応してくれないよ。
愛媛の選手って皆優しいね』と。続けて『今
日は楽しかったし、オレくんもかわいかつ
た。他の愛媛のマスコットも見てみたいし、

選手もやさしかった。また愛媛の試合を観に行ってみたい』と言ってくれた友達は笑顔でした。私も『うん、一緒に行こう！』とつられて笑顔になってました。

最後に。自分は関東に住んでいるので、なかなか愛媛FCの試合を観に行くことができません。でも自分の中で愛媛FCはかけがいのない存在です。愛も元気も勇気も希望もいっぱい詰まっています。少しでも愛媛FCに興味持っている方がいたら是非スタジアムに行つて欲しいと思います。

神奈川県在住 女

愛媛FC観戦歴 3年

私	と	愛	媛	FC															
小	さ	い	頃	か	ら	、	「	広	島	に	は	サ	ッ	カ	ー	も	野	球	
も	あ	る	の	に	、	何	で	愛	媛	に	は	無	い	ん	だ	ろ	う	。」	
そ	ん	な	事	を	思	っ	て	い	ま	し	た	。							
愛	媛	に	プ	ロ	サ	ッ	カ	ー	ク	ラ	ブ	が	出	来	る	！	！		
そ	の	興	奮	が	、	私	の	愛	媛	FC	観	戦	の	き	っ	か	け	で	し
た	。	大	学	1	年	生	の	頃	で	す	。								
年	数	回	の	「	観	戦	」	だ	っ	た	も	の	が	、	大	学	生	活	
の	後	半	に	な	る	と	、	ど	う	す	れ	ば	1	試	合	で	も	多	く
「	参	戦	」	す	る	事	が	出	来	る	の	だ	ろ	う	か	と	考	え	て
生	活	し	て	い	ま	し	た	。											
大	学	生	活	と	共	に	あ	っ	た	私	の	愛	媛	FC	で	す	が	、	
私	が	社	会	人	と	な	っ	た	頃	に	は	、	私	を	応	援	し	て	く
れ	る	存	在	に	も	な	っ	て	く	れ	ま	し	た	。					
社	会	の	厳	し	さ	を	知	り	、	辛	く	、	投	げ	出	し	た	く	
な	る	気	持	ち	が	出	て	き	た	頃	、	私	を	支	え	、	励	ま	し
て	く	れ	ま	し	た	。													
1	勝	を	、	1	点	を	掴	み	取	る	為	に	、	全	力	で	駆	け	
上	が	る	選	手	達	の	姿	を	見	て	感	じ	て	応	援	し	て	い	る

と、いつの間にか力がみなぎってくるのです。

また1週間、辛い事もあるかもしれないけど、「とにかく頑張ろう！」と、元気の源が沸き上がってくるのです。

こうして、私は辛い時期を乗り越える事が出来ました。

これからも、愛媛FCは1勝を目指し全力で戦うチームであって欲しい。

私はそんな愛媛FCを応援し続けたい。

栃木県宇都宮市 男性24歳 観戦歴6年

「地元のプロスポーツがあるよろこび」

2004年9月27日、Yahoo! BB スタジアム。

大阪生まれ・大阪育ちの私が少年時代から応援し続けてきた大阪近鉄バファローズは、この日が史上最後の一軍公式戦となった。

帰りの電車の中、泣き崩れるバファローズファンの女性の姿を見ながら、私の心のなかにはさまざまな想いが渦巻いた。

怒り、悲しみ、諦め、後悔、憎しみ…。

そしてこう決意した。

「こんな想いをするのなら、もう特定のプロスポーツチームのファンにはなるまい。」

それから5年間。

就職してから住んでいる愛媛に愛媛FCと愛媛マンダリンパイレーツという二つのプロスポーツチームがあることは知っていたが、観戦に行こうと思うことはなかった。

そんなときに一冊の本と出会った。

『サッカーがやってきた ザスパ草津という実験』（辻谷秋人・著）。

ザスパ草津の選手が草津温泉の旅館で働きながらJリーグ入りを目指している姿は過去にニュースで見たことがあり、興味があったので手にとった。

そこに描かれていたのはザスパを支える草津の町の人々の姿だった。

プロ野球とは違う、クラブチームとサポーターとの関わり方に心を動かされた。

この本の最終章には愛媛FCのことが書かれていた。

そこではじめて愛媛FCの試合を観に行ってみようという気持ちになった。

はじめてのニンジニアスタジアム。

ローカル色豊かな出店の数々。ボランティアの皆さんによる温かいおもてなし。

老若男女、いろんな人々がオレンジ色を身につけて選手たちに声援を送る姿。

一緒に声援を送るうちに、かつてバファローズを無心に応援していた日々の記憶が蘇った。

「よし、愛媛FCを応援してみよう！」

地元のプロスポーツの勝敗に一喜一憂できる日々。

これは地元プロスポーツが存在しなければ当然ありえないものだ。

愛媛FCには地元のプロスポーツを応援するよろこびを思い出させてもらった。

今度は愛媛FCを全力で支えていかなければならないと思っている。

あの日のバファローズファンの悲しみを二度と繰り返さないために。

愛媛県松山市 男性 35歳 愛媛FC 観戦歴2年目

「世界との窓口 愛媛FC」

私の友人は、松山の郊外で夫婦と良きスタッフで朝から夜までお店を営業しています。

今や友人は熱心な愛媛FCサポーターとなりお店にはポスターやフラッグを掲示、ファンづくりのため、選手に地域行事への参加をお願いしたり、愛媛FC中心の生活となっています。

数年前、その地域に当時の羽田選手、加藤選手、猿田選手が来て地元チームの子ども達と練習する事になりました。お店に来るお客さんの小学生の男の子を誘い参加。車イスでの参加なのでゴール裏から応援。GKの羽田選手がボールをキャッチするたび「すげえ」と声をあげ、3選手のファンとなり、それ以来選手は代わっても愛媛FCのサポーターとして、ご両親と試合や練習も見に行っていた彼も今年小学校を卒業。そんな様子を見ている友人は元気をもらい、私の元気でもあります。

友人のお店には愛媛FCファンでないお客

さんも来られます。ホーム試合で応援をとい
ろいろな人に声を掛け、時には自分の車に乗
せて行く事もあります。3年前、あるお客さ
んから「愛媛FCには興味が無い」「サッカ
ーは海外チームしか観ない」と言われた頃、
愛媛FCの今後について話す機会がありまし
た。その時「愛媛FCは世界を目指す」と話
した事がありました。その後ちょうど開幕前
でしたが2週間ほど、連絡もしなかったの
で、仕事が専念していると思っていたところ、
友人から連絡があり、「マンチェスターのチ
ケットが手に入ったので格安航空券でイング
ランドに行ってきた」との事。何故なら「お
客さんに言われて悔しかった。愛媛FCが世
界一を目指すというので世界一のチームはど
のようなのか、確かめに行った」
そして2年前の朝、寝ていた子どもに「お父
さんどこ行くの？」と聞かれ「これからロン
ドンに行く」と答えたそうです。愛媛FCに
専用スタジアムをという声が出てきた頃です。

友人曰く「専用スタジアムってどんなものか、
スタジアムを見に行った」「専用スタジアム
はすごい。見学もパーティーもできる」等々
いろいろと聞かせてもらいました。
愛媛、四国、日本を飛び出して、おらがまち
の愛媛FCは世界と繋がっていました。しか
し原点は地域の子どもに元気を与えてくれた
事、そして大人も元気になっている事を実感
しました。

愛媛FC歴 11年

中年のおじさんより

あたしと、愛媛FC。

出会いはびっくりするくらい不純。

ふわふわと立ち寄るようになったお店で見た
新聞記事。選手の紹介が載っていた。

めっさ男前がいてるやん！！実物見てみた
い！！

単純で不純。

始まりは、そんな感じで。

だって、運動と名の付くものと全く縁の無か
ったあたし。

サッカーが何人でするスポーツかも知らない
残念な人だったわけで。

でも、気付けば愛媛FCがあるから、週末まで
頑張って働くかあ！！って思えたり、大事な
仲間がたくさん出来た。

そして何より、こんなあたしの生活を理解し
てくれる家族のありがたさを、繋がりを再認
識することが出来た。

あんたまたサッカーかね…っていう母の小言
が日常会話にあるっていう心地よさ。

数年前のあたしにそんな生活が想像出来ただ
だらうか。

月曜日にがらがら声だとしても、はっきり言
えるコト。

あたし、愛媛FC大好き！！

だから、たまに思い出してニヤいてしまうの

は許してね。

これからもずっと、共に戦おう！！

新居浜市在住 女性 29歳 観戦歴 6年

生き甲斐

大袈裟ではなく、友人も話相手もいなかった私には、そんな存在それが、愛媛 FC です。

地元をはなれ 43 年、定年を前に退職、母親の介護の為に帰郷。そのうちストレスや不摂生から大病を患い入院、余り無理を出来ない体に、そして母親が他界。

目標をなくし、一人暮らしを送っている時に、知り合いから愛媛 FC ファンクラブへの誘いを受け義理で入会。

当時サッカーと言えば TV で日本代表の試合を見るくらいで、愛媛 FC の存在を知らなかったのです。

そんな私に転機が訪れたのです、07 年ホーム三戦目、一度だけでもと思って観戦、初めてのサッカーこんなに素晴らしいものとは思いませんでした。

この日を境にホームゲームは必ず観戦、時にはアウェイにも参戦、又時には練習場へ出かけるようになってしまいました。

おかげで、沢山のひとと知り合い、話しをするように成りました。

現在 67 歳、サポーター歴は短いですが、愛媛 FC の無い生活は考えられません。愛媛 FC ありがとう私の生き甲斐です。

東温市 67 歳 男性

神奈川 県横浜 市	男性 25 歳	観戦 暦 10 年	な存在 になっ ていろ と感 じて いま す。	与えら れ、私 の人生 にお いて 愛媛FC は、大 き	愛媛FC は、今 や生活 の一部 となり 、元 気を	で、平 日の仕 事を頑 張れて いる。	して、 勝利を みんな で喜 びあ う週 末が 楽し み	間に会 って、 勝利の ため に戦 う選 手達 を応 援	んなで 愛媛FC を応援 して きた。 毎 回よ うに 仲	それ を通 じて、 たく さん の仲 間と 出 会 い、 み	あれ から 10 年、 何 度 も ス タ ジ ア ム に 通 っ た	援する 楽し さを 知る こと が で き ま し た。	けど、 サツ カー とい うス ポ ー ツ の 面 白 さ、 応	観戦 で、 まだ 応援 のや り方 は分 か ら な か っ た	しま った。 私に と つ て、 初 め て の ス タ ジ ア ム	1ビ ー だ っ た。 残 念 な が ら、 愛 媛 FC は 敗 れ て	い で 行 っ た の が、 2 0 0 7 年 開 幕 戦 の 四 国 ダ	の地 元あ る愛 媛へ 遊 びに 行 き、 そ の 友 人 の 誘	私 は、 愛 媛 に 縁 も ゆ か り も 無 か っ た。 友 人	「愛 媛と の 出 会 い」
-----------------	---------------	--------------------	---	---	--	---------------------------------	--	--	---	--	--	--	--	--	--	---	--	--	---	-------------------------------

「俺は愛媛が大好きさ！」

私、サッカーはBSやスカパーで海外サッカーを見ていましたし、Jリーグが開幕した1993年から注目していて親しみは感じてきました。愛媛FCも設立当初からニュースで気にしつつも、スタジアムに足を運んだことはありませんでした。

2006年J2に昇格した時、東温市がマッチシティとなった札幌戦が初の愛媛FCスタジアム観戦でした。カメラが趣味で、望遠レンズで田中俊也選手のヘディングゴールをバッチリ撮影できた時は、気持ちよかったです。その年は、その試合だけの観戦でした。

翌2007年は、マッチシティに仕事絡みで関わるようになり、スタジアムに行く回数が増えました。どうせ行くなら精一杯楽しんでやろうと、ゴール裏近くに行くようになりました。生来、声が大きいので、思いっきり声を出せる場所も求めていた自分にとって格好

の場所でした。その後、ネットで知り合ったサポーターに触発されてアウェイのバスツアーに参加し、本格的にゴール裏の住人になり、その姿をテレビで見た知り合いの話題にもなり、自他ともに認める愛媛サポーターになってしまいました。

去年からはカメラを持ったまま声を出し、ゴールシーンを狙ってます。ゴールシーンを撮れた試合の勝率がいいもんで。

(趣味のカメラに関しては、愛媛のご当地アイドル・ひめキュンフルーツ缶が去年ニンスタでプレデビューしたことがきっかけで、ファンにもなり、彼女たちも撮影しています。)

あと、愛媛マンドリンパイレーツにも関わってるので、今年になり、「もっと愛媛を盛り上げたい！」と思い、ニンスタでの準備ボランティアに参加するようになりました。

試合前にオーレカフェや会場の準備・設営のお手伝い。試合の6時間前に集合。開幕は朝寒い中の作業ですし、夏は昼間の一番暑い中

で、汗だくになりながらの大変な作業ですが、
年齢や性別を超えた方々との共同作業は充実
感いっぱいです。震災後4月の中四国4チー
ムのチャリティマッチの時、メインゲートに
設置した4チームのノボリが、J'sゴール
の写真に紹介された時は、感無量でした。
また先日、元横浜Fマリノスの松田直樹選
手が急逝された直後の試合では、もう一人の
ボランティアの方と半旗を掲げ、録画した映
像でそれを見て、改めてサッカーが、愛媛が
好きな自分を認識しました。
愛媛をサポートするつもりで始めた準備ボ
ランティアですが、こちらが日々の元気をも
らってます。
これからも、愛媛を盛り上げるために、週
末は準備ボランティアに、ゴール裏での応援
に励んでいきます。
東温市在住 42歳 男性

愛媛 FC サポーターになって

高校3年の時に J リーグが開幕した。過去にサッカー部に所属していたので興味はあったが、愛媛に生まれ育った自分にはまだ身近な存在ではなかった。

進学で大阪へ行くと下宿のすぐ近くに J リーグを目指すチームがあった。気が付くと観戦の楽しさにすっかりはまって、昇格を決めた試合は授業をサボっての観戦だった。

愛媛に U ターン就職したが大阪勤務になったためそのチームを引き続き応援した。その頃はゴール裏の端の方に座って主に手拍子、得点時だけ盛り上がる応援スタイルだった。

やがて J リーグを目指す愛媛 FC の存在を知る。生まれ故郷のチームをぜひ応援しなくては！と、まずは京都でアウェイ観戦。帰省時にホームでも観戦。もっと積極的に応援したいとの思いでサポーターとの交流も深めて、徐々に盛り上がっていった。

そして J リーグ昇格目前の 2005 年。スタジアム問題に揺れた頃からいてもたってもいられず、ホーム・アウェイへの遠征が一気に増えた。ゴール裏で手を叩き、声を出し、飛び跳ねて必死に応援した。そして都田で 2 度目の昇格を体験。あの日の感動は二度と忘れる事ができないだろう。

J リーグ昇格後も愛媛 FC の奮闘ぶりだけでなく、車やバスで一緒に遠征に行ったり結婚を祝ってもらったりとサポーターからも多くの元気をもたらしている。そして、3 度目となる J 1 昇格の時にはもっと多くのサポーターと一緒に感動を分かち合いたいと思っている。

岡山県在住 男 36 歳 観戦歴 10 年

今	こ	ニ	ア	て		忙	た	し	は		い	ち	試	当		充	工		
治	ろ	ホ	ム	彼	今	し	安	み	働	し	っ	二	合	時	そ	実	期	大	
市	に	ー	に	女	も	い	ど	よ	く	ば	た	人	だ	付	ん	し	に	阪	
在	は	ム	通	と	私	な	感	り	場	ら	た	が	っ	き	な	た	追	に	私
住	J	だ	っ	の	は	が	が	も	所	く		お	た	合	毎	わ	転	に	は
	1	け	て	間	当	ら	強	、	を	し		互	。	っ	日	れ	勤	は	帰
三	の	ど	い	に	時	も	か	先	失	て		い	あ	て	の	、	な	つ	る
九	舞	、	る	生	付	充	っ	の	っ	転		な	の	い	中	ま	た	た	場
歳	台	ユ	。	ま	き	実	た	見	た	勤		な	試	た	で	た	慣	っ	所
男	で	ニ	彼	れ	合	し	。	え	。	先		ぐ	合	彼	も	な	れ	の	が
性	応	ホ	に	た	っ	た	幸	な	た	の		共	以	女	か	な	い	は	あ
	援	ー	は	息	て	生	い	束	だ	会		通	来	と	っ	。	土	三	
	し	ム	ま	子	い	活	再	縛	私	社		の	、	行			地	二	
観	た	の	だ	を	た	送	就	か	は	が		存	愛	っ			で	歳	
戦	い	袖	大	連	彼	っ	職	ら	職	整		在	媛	た			の	の	
歴	も	に	き	れ	女	て	先	解	を	理		に	F	愛			生	時	
九	の	腕	す	て	と	い	に	放	失	に		な	C	媛			活	だ	
年	だ	が	ぎ	ス	、	る	恵	さ	っ	り		っ	は	F			は	っ	
	。	通	る	タ	そ	。	ま	れ	た	私		て	私	C				た	
		る	ユ	ジ	し		れ		悲				た	の					

。

じゃって愛媛が好きじゃもん
私が初めて試合を見たのはつい最近の事で
す。恥ずかしながら最初、愛媛にプロリーグ
が有る事さえ知りませんでした。そんな私が
試合を見るきっかけになったのは六月のガイ
ナーレ戦です。その日私は試験で外出してい
ました。試合がある事はCMで偶然見たので
知っていました。が、その日はすごい大雨で
傘をさしても濡れました。「こんな日にサッ
カーなんかやれんやろうな」と思いながら試
験を終え家に帰り、少し気になったのでパソ
コンで検索してみました。するとあの雨の中
試合をして勝っていました。中でも内田選手
の表情がとても印象的で、愛媛の名前をつけ
たチームが必死に戦う姿に大変感動しました。
それ以後台風の前日であるうが、行ける試合
は必ず行くようになりました。だんだん友達
も来てくれるようになり、今や私の新たな生
活リズムです。

松山市 女・一九才 観戦歴ほんの三カ月

当	は	が	テ	と	百	ば	さ	い	ん	ま		歩	デ	日	あ		縁		
日	夫	あ	レ	愛	円	ら	せ	日	楽	さ	そ	い	パ	を	り	私	も	私	一
、	婦	り	ビ	媛	だ	ら	て	和	し	に	こ	て	ー	送	、	は	ゆ	達	見
松	と	ま	で	の	か	く	も	で	そ	老	に	い	ト	っ	、	、	か	夫	知
山	も	す	サ	の	ら	席	ら	し	う	若	は	る	に	て	も	も	り	婦	ら
市	に	が	ッ	試	買	を	い	た	に	男	緑	う	出	い	と	な	は	ぬ	地
駅	初	、	カ	合	っ	離	ま	の	フ	女	が	ち	か	ま	あ	い	夫	土	で
か	め	ス	ー	の	て	れ	し	で	ッ	、	綺	、	け	し	ま	松	の	地	
ら	て	タ	日	チ	み	て	た	ベ	ト	い	麗	い	、	た	。あ	山	転	で	
バ	す	ジ	本	ケ	た	い	。そ	ン	サ	ろ	な	ろ	。あ	。	る	に	勤		
ス	。	ア	代	ッ	。	夫	う	チ	ル	い	フ	い	る	日	越	の	た		
に		ム	表	ト	来	が	し	に	を	ろ	ッ	ろ	、	し	し	た	め		
乗		で	の	を	週	戻	て	座	し	な	ト	い	、	て	て	、	こ		
っ		の	サ	持	行	っ	い	っ	て	人	サ	ま	二	き	ま	の	春		
て		サ	ッ	っ	っ	て	る	し	い	た	ル	し	人	ま	し	こ	、		
着		カ	合	い	み	、	う	ば	ま	が	場	ろ	で	り	た	こ	全		
く		ー	は	ま	よ	一	ち	ら	し	た	が	市	市	が	と	く			
と		観	観	し	う	5	に	く	。	。	た	内	内	ち	も				
、		戦	る	た	う	ー	し	観	い	、	、	の	の	毎					

すでにした。人の流れに
ついて競技場のなかに入るとそこにはみたこ
とのない空間が広がっていました。入るとき
にもらったパンフレットを読んで、初めてそ
の日の対戦相手が東京ヴェルディというこ
を知らしました。サツカーにあまり詳しくない
二人でもヴェルディのことはよく聞いたこと
があり、500円で有名なチームが観れるとい
うことで、とてもお得な感じがしました。
しばらくらくするとなにか試合前の余興のよう
なりレーサーが始まりました。試合だけかと思っ
ていましたので、ちよつとびっくり。お隣に
座って見た子供達がマスコットのぬいぐるみ
を持ってリレーの様子を上演しながら解説し
ているのを見て、様子がわかり楽しめました
ししばらくしてそのお子さん達のご両親ご夫妻
とお話しするようになり、愛媛FCが連敗中で
今日勝たないと厳しくなること、齋藤という
選手が期待できることなど色々伺いました。
おかげで試合が始まるまでにはすっかりに

ま	ば	ん	出	度	期	見		て	ん	ま		「		ん	め	イ	点	皆	わ
す	ら	あ	会	は	を	な	今	お	が	だ	そ	ま	見	と	て	タ	が	さ	か
。	く	り	え	誘	同	が	で	話	、	あ	の	あ	事	抱	見	き	き	ん	フ
	夫	、	て	っ	じ	ら	は	し	そ	の	時	の	、	き	守	ま	と	一	ア
松	の	皆	本	て	く	考	、	す	の	お	の	隣	愛	合	り	っ	緒	に	な
山	愛	さん	当	み	し	え	い	る	た	隣	お	媛	っ	っ	、	た	に	な	っ
市	媛	穏	に	よ	て	る	つ	の	び	さ	隣	コ	い	い	2	と	喜	な	っ
	勤	や	よ	う	、	の	観	が	に	ん	は	が	ま	ま	点	ん	っ	て	い
女	務	か	か	と	お	が	に	と	違	に	再	勝	し	決	に	だ	い	て	、
性	が	な	っ	考	友	楽	い	も	う	は	会	利	ま	ま	は	り	、	あ	と
22	続	人	た	え	達	し	け	楽	お	は	で	し	っ	っ	は	悔	あ	と	は
歳	け	ば	で	て	も	み	る	し	隣	再	き	た	、	た	は	し	が	っ	た
	ば	か	す	い	で	で	か	み	さん	会	始	後	お	と	両	が	っ	た	り
観	い	り	。	ま	き	す	、	で	と	で	め	、	隣	き	手	っ	た	り	。
戦	い	で	自	す	始	。	カ	す	仲	き	た	お	さん	は	握	た	り	。	先
曆	と	す	然	。	め	ち	レ	。	良	て	の	と	と	り	し	。	先	制	の
2	思	し	が	愛	た	よ	ン		く	い	で	は	隣	さ					
カ	っ	、	た	媛	の	う	ダ		な	ま	今		は						
月	て	し	く	コ	で	ど	ー		っ	せ									
	い	し	さ	に	今	時	を												

。

あなたが「愛媛FCに元気をもらった」経験談をお寄せください。書式、形式、長さは自由です。実際の事例をご用意していますので参考にさせていただきます。http://efck.net/action/ 最も印象に残る経験談を漫画家能田先生が4コマ漫画にさせていただきます。

●ご送信先: 本日、受付にご提出いただくか、下記の方法でお送りください。
メール送信: orange@ehime-support.net
ファックス送信: 05034888325 (カバーページは不要です。本文のみご送信ください)
郵送: 〒791-0054 松山市空港通6-17-12 SMILE GOLF STUDIO (スマイルゴルフスタジオ) 気付 愛媛FCサポート連絡会

「愛媛FCに元気をもらった」を集めよう!

愛媛FCに感謝
家族に理解を得て
遠征しています。観戦以外の楽しみとして
東京在住の高校以来の友人との再会です。曰
程が発表されると連絡を取りあっています。
た同窓会をスタジアムで開いています。
毎回ゴール裏で応援しています。そろそろ
年齢に勝てなくなり。90分間飛びはねると
翌日は足がパンパンになり、仕事に支障をま
たし始めました。
そこで、今年も飛び続ける体力作りの為
週二日一時間走るようにしました。少しは体
力がついたと思います。少し足にも筋肉が
ついてきました。おなか周りは締まってきました。
た。学生の頃は走るのも筋トレも大嫌いだ。
たのに。愛媛FCに感謝です。
残念な事に最近ひざがバキバキ鳴るよう
になりました。
松山市在住お才男
応援歴7年

行目に題名を、
末尾に
るしければ
住まいの市町村、
年齢、性別、
愛媛FC応援歴
をご記入ください。
※横自由です
数枚にわたる
場合は1/3など
ページ数もご記入
ください。

「サッカーのある生活」

独身時代、もともとサッカーを見るのが好きだった私は、当時仕事をしていた東京であるJ1のチームのウェイサポータをごく自然に始めた。沢山の出会いがあり、様々なチームのホームタウンを見てきた。

その後、地元に戻り、結婚し、出産。下の子どもが生まれて間もなく離婚も経験した。

息子は物心ついたころからボールをけり始め、幼稚園でサッカー教室に入った。そんな頃、地元のJリーグ入りを目指す愛媛FCというJFLのチームがあることを知る。

ある時、選手がシートを用意して招待してくれるという企画があるのを知り応募をしてみたところ、愛媛FCからの知らせが！幼い娘を実家に託し、5歳の息子にとって初めてのスタジアム観戦に二人で出かけた。そこには能田先生が描いた選手のイラストに選手手書きのメッセージが添えられていた。

あの日から丸7年。最近こそ息子達の試合

などと重なってスタジアムに足を運べない日
が増えたが、常に愛媛FCとサッカーが私た
ち家族の中心にある。

降りしきる雨の中、寒さに凍えそうなスタジ
アムで爆睡する娘を抱え、息子や友人達と共
にJ入りを目指し応援したこと、負けた試合
を見てまるで選手のように悔しがって泣いた
息子の顔、選手を出待ちして快くサインして
もらって嬉しかったこと、色んな思い出が詰
まっている。そして日々愛媛FCが気になる
私。もうFCのない生活は考えられない。地
元にJチームが無かった時代を知っているか
らこそ、今が幸せだなあと思うし、子ども達
は恵まれていると思う。

これからもJ1に上がる日を信じて応援し
ていきたい。

因みに息子の部屋には、7年前のまだ青い
ユニフォームを着た選手のイラスト入りメッ
セージが飾られている。

松山市在住 女性 40歳 観戦歴 7年

「家族の楽しみ」

転勤で私達夫婦の地元愛媛に帰って来たのは去年の春でした。

サッカーが好きな息子の影響でスタジアムに足を運ぶようになりました。目の前で見る迫力のある試合に感動し、いろいろなイベントやマツチシティのみなさんのおもてなしもあり、スタジアムに行くのが私達家族の楽しみになりました。

今年は、ファンクラブにも入会して、ホーム戦は毎回見に行っています。友達や甥っ子を誘って試合を見に行くと、「また行きたい」と言ってくれ、少しずつ私の周りでもファンが増えてくれて嬉しいです。

これからも、一回でも多く、出来れば毎回の勝利のライオンダンスが見られる事を願いますがスタジアムに足を運びます。

松山市在住

43歳

観戦歴 1年半

女性

愛媛FCを好きになった瞬間

南アフリカで戦う青いサムライ達をTVで観ていたら、ふと長谷部が言ったのです。

「Jリーグも観に来てください」

そういえば僕の住む愛媛にもJリーグのチームがあったよね…。

青いサムライ達に感動させられてしまった僕は興味をかきたてられました。いろいろ調べていると、監督がオシムと同じ旧ユーゴの人ということを知りました。愛媛のチームに東欧人監督とは正直驚きでした。ニュースで聞きかじっていた愛媛FCの印象は、弱い田舎のチーム。でも監督は結構な経歴の東欧人。僕の認識はなにか間違っているのかもしれない。自分の目で愛媛FCを観てみたい…。

その夏、TVのCMでお盆休みに試合があるのを知りました。その日は家内の実家に居り、スタジアムはすぐ近く。長谷部の言葉にも後押しされて、観戦に行きました。

試合が始まると、その雰囲気は呑まれてし

ま	い	ま	し	た	。	選	手	が	ボ	ー	ル	を	蹴	る	音	。	選	手	同
士	が	ぶ	つ	か	り	合	う	鈍	い	音	。	選	手	の	声	と	息	づ	か
い	ま	で	聞	こ	え	て	き	ま	す	。	そ	し	て	サ	ポ	ー	タ	ー	の
声	援	。	ワ	ン	プ	レ	ー	で	盛	り	上	が	る	ス	タ	ジ	ア	ム	。
全	て	が	生	で	熱	い	。	も	う	強	い	弱	い	と	か	、	田	舎	の
チ	ー	ム	だ	と	か	は	関	係	な	く	な	り	ま	し	た	。			
	僕	の	故	郷	で	あ	る	「	愛	媛	」	の	看	板	を	背	負	っ	て
熱	く	戦	う	男	た	ち	が	い	る	。	そ	れ	だ	け	で	十	分	だ	。
愛	媛	FC	を	大	好	き	に	な	っ	た	瞬	間	で	し	た	。			
	そ	の	後	も	、	足	繁	く	ス	タ	ジ	ア	ム	に	通	っ	て	い	ま
す	。	勝	つ	と	飛	び	跳	ね	て	喜	び	、	負	け	る	と	眠	れ	な
い	く	ら	い	口	惜	し	い	。	そ	ん	な	生	な	感	情	を	む	き	出
し	に	で	き	る	生	活	を	満	喫	し	て	い	ま	す	。	充	実	し	た
日	々	で	す	。	あ	り	が	と	う	愛	媛	FC	。						
	こ	れ	か	ら	は	僕	自	身	が	愛	媛	FC	、	ひ	い	て	は	愛	媛
の	た	め	に	で	き	る	こ	と	が	な	い	か	探	し	て	い	き	た	い
と	思	っ	て	い	ま	す	。	愛	媛	が	元	気	に	な	れ	ば	、	僕	も
も	っ	と	元	気	に	な	れ	る	と	思	う	の	で	。					
	松	山	市	在	住		40	歳	男	性		観	戦	歴	1	年			

てしまったのでした！

愛媛FCの試合が近づくと、この『ドキド

キ・ワクワク』が止まらなくなる！ 40歳

を過ぎたおっさんが、楽しみで夜眠れなくな

る！ なぜ？ それはスタジアムで大きな声

を出して、愛媛FCを応援すればきっとわかる

はず！

忘れかけてた『トキメキ』を与えてくれた

愛媛FCに感謝し、これからも思いっきり楽し

ませてもらいます！

四国中央市在住 45歳男性 観戦歴6年

「愛媛FCが僕にくれたもの」

2003年9月6日。初めて愛媛FCの試合を観戦した日。

対戦相手は、当時の大塚製薬、今の徳島ヴォルティスでした。

0-1で敗れはしたものの、その時の僕は生まれ故郷の愛媛が好きになりました。

高校まで県内にいたものの大学で県外へ、仕事のため愛媛に戻ってきましたが、

正直、愛媛という田舎に魅力を感じることはなく、愛媛に誇りなど全く感じていませんでした。

しかし、愛媛FCを初観戦し、敗れた悔しさがきっかけとなり、僕は愛媛の人なんだと実感したのです。

愛媛で生まれ、愛媛で育ち、愛媛県以外に羨望を持った時もあったけど、今は誇りに感じる愛媛。

僕に僕自身をくれたのが、愛媛FCです！

「選手は移籍する。でも俺達は移籍しない」

2009年3月の開幕戦。

彼達は23人という少数で2009年のJ2という名の戦場に出撃し拳を掲げ、闘いぬこうとしていたのだ。

開幕前に怪我人も出てしまい、只でさえ少ないメンバーがさらに減っていった。

思うような戦術なんて出来るわけがない、そんな中でも投げ出さず一生懸命にチームを強くしようと頑張ってくれた監督。本当に感謝したい。

選手もまた直向きに戦った。勝ち負けではない、試合をする事だけでも精一杯なのに、プロとしてのプライド、そして愛媛FCの選手としてのプライドがあったに違いない。必死に勝利の為に闘っていた。

そんな姿に、また一緒に闘う元気をもらった。

このシーズン、辛い試合は多かった、辛い苦しいシーズンになった。

それでも選手達は何度も何度も立ち上がり、諦めずに敵に向かっていく。何回も感動をし、元気をもらった。

もう引退しているが、ある選手との忘れられない思い出がある。

彼は愛媛出身ではない。しかし愛媛の為に闘い、愛媛の事を誰よりも愛してくれた選手だった。

彼は「俺達は移籍したりして、チームが変わる事も引退して愛媛を離れる事があるかもしれないけど、サポーターの方はそうはいかないですからね。俺達も愛媛の為に試合で闘うのでサポーターの方も愛媛の為に闘って下さい。」

まさにその通りだった、俺には応援できるクラブは愛媛FCだけだった事に気づかされた。

そして愛媛FCの存在に感謝した。なくしてはダメだとも思った。

彼のプレーやゴールには何回も元気をもらった。

彼が引退した時、愛媛FCのサポーターに感謝しています！と言っていたが。感謝するのは俺達サポーターだよ。

愛媛 FC、今は弱いかもしれない。
応援していれば、辛く苦しい思いもするだろう。
しかし、そんな状況でも愛媛の為に闘っている戦士達がいる限り俺も闘い続けようと思う。

上を目指してこれからも一緒に闘おうぜ！

元気をもらった？元気をもらうどころじゃないよ。生き甲斐だよ。愛媛 FC 無しじゃ生きていけない。

愛媛 FC がゴールを決めれば喜び、勝てばさらに喜び元気をもらう。負ければ当然落ち込む。

スタジアムでの迫力あるプレーやゴール、そして勝利した瞬間はそこでしか味わえない感覚があり喜びがある。

想像して下さい。自分達の代わりに愛媛のプライドを背負って一生懸命闘う選手達。

そんな光景が毎週末観ることができる。応援する事ができる。シビれるでしょ？興奮しませんか？

そんな姿見たら、自然と元気だってでますよ。

まだ試合を観たことない皆さん！

あなたにとって愛媛 FC とはどんな存在ですか？

一回観に来てください。

きっとあなた達に元気をくれる存在になるでしょう。

私は毎週末元気をもらっています。

松山市在住 ANA 25 歳

「	恩	師	か	ら	広	が	る	輪	」											
数	年	前	、	久	し	ぶ	り	に	中	学	の	同	級	生	か	ら	お	誘		
い	が	か	か	り	、	ク	ラ	ス	会	に	参	加	し	ま	し	た	。	担	任	
の	先	生	と	は	20	年	ぶ	り	く	ら	い	だ	っ	た	で	し	ょ	う	か	、
各	校	で	教	頭	先	生	、	校	長	先	生	を	歴	任	さ	れ	、	ご	勇	
退	さ	れ	た	と	の	こ	と	で	し	た	。	少	し	髪	は	白	く	な	ら	
れ	て	い	ま	し	た	が	威	勢	の	よ	さ	は	全	く	変	わ	っ	て	お	
ら	れ	ず	、	ち	よ	う	ど	正	面	に	座	ら	れ	た	と	き	に			
「	お	う	、	時	間	と	金	は	あ	る	け	ど	や	る	こ	と	無	い		
ぞ	一	つ	ま	ら	ん	ぞ	一	、	な	ん	か	な	い	か	ー	」				
と	い	か	に	も	活	動	的	だ	っ	た	現	役	時	代	を	懐	か	し		
む	よ	う	な	発	言	が	あ	り	ま	し	た	。								
す	で	に	そ	こ	そ	こ	の	愛	媛	FC	サ	ポ	に	な	っ	て	い	た		
私	は	す	か	さ	ず	、														
「	だ	っ	た	ら	愛	媛	FC	、	見	に	来	て	下	さ	い	よ	、	チ		
ケ	ッ	ト	工	面	し	ま	す	か	ら	」										
と	誘	っ	た	と	こ	ろ	、	し	ば	ら	く	し	て	、	実	際	に	ス		
タ	ジ	ア	ム	に	来	て	く	れ	ま	し	た	。	普	段	は	ゴ	ー	ル	裏	
が	定	位	置	で	す	が	、	そ	の	日	は	メ	イ	ン	ス	タ	ン	ド	で	
先	生	の	隣	に	座	っ	て	昔	話	に	花	が	咲	き	ま	し	た	。		

「オレバスがくれた元気」

その日、僕は、ある資格試験を受け、思った以上に出来がわるかったため、落ち込んで雨の街を歩いていました。

通りで信号待ちをしていた私の前を、オレンジ色のバスがゆっくり通りかかりました。(しぶきがかからないように徐行してくれたようでした。) 愛媛 FC というサッカーチームがあり、みかん星人みたいなのがマスコット (もちろん今では愛するオ〜レくんですが) なのはなんとなく知っていましたが、そのオ〜レくんが勢いよくサッカーボールを蹴っているイラストが大きく描かれていました。そのイラストに気をひかれバスを見送ったところ、バスの後ろ面にはあのヨダレ (もちろん今では果汁と知っていますが) を飛ばしたオ〜レくんの不敵な表情がどアップ!! 思わず吹いてしまいしばらく見送っていました。そして脇をもう一台のオレンジバスが通り抜け、今度はかわいい女の子がウィンクしている表情のどアップ! 思わずにやけてしまいました。

自宅にもどった私は、パソコン検索で、このバスが愛媛 FC のためにつくられたオレバス 1 代目、2 代目であることを知りました。検索でいろいろな写真を見て、こんな楽しさを振りまいて街中を走っていることに感動すら覚えました。ふと気がつくとも試験がうまくいかなかったことをすっかり忘れていました。なぜか試験に失敗したことがとても小さなことに思えました。あのバスを考えた人たちのアイデアと実行力を考えると、資格だけとればなんとかやっているといていたのが間違っているように感じ、もっと他にできることがあるような気がしました。

それから愛媛 FC についても研究し、昨年からはスタジアムで何回も応援しています。スタジアムには少し早目に着いて、あのバスが選手達を運んでくるのを待つようにしています。スタジアムで友達もたくさんできましたが、バスがきっかけでファンになった人にはまだ会ったことがありません。その後まだ、本当にやりたいことを見つけられていませんが、今度は試合で頑張る愛媛 FC に元気をもらいながら、自分も頑張っていればそのうちなすべきことを見つけられそうな気がしています。

松山市 23 歳 男性

「この街、を感じて
私の父は筋金入りの年季の入った巨人ファ
シだ。私も小さい時から毎日の様にTV中継
を見せられた。勝てば勝利の美酒、負ければ
ヤケ酒を飲む父。通勤で大阪に引っ越せば
阪神電車に乗って甲子園通り、松山に戻れば
フエリーに乗って広島球場へと家族中で大移
動。勝利に一喜一憂してそれなりに楽しいの
だけけれど、いつも少し違和感があった。
そんな父からも独立し、結婚、出産、そし

て子育てに忙しい日々を送っていたある日の
こと、子どもを遊ばせようと思っただア
イテムえひめに、見慣れぬハリボテのような
みかんが！（：のちのオレくんでした）
「愛媛にJリーグをL貰ったチラシにはそ
う書いてあります。（何？ナニ？愛媛にサツ
カイチームができるの！？）ドキドキがとまり
ませんでした。研部で見た日本代表、鹿島、
広島の試合では感じなかった感情がどんどん
湧き上がってきて、それは私の中の地元への

愛だっただのと確信しました。

自分の住んでいるこの街、家族と共に生きて
いるこの街で、愛媛FCというチームを応援
できる喜び、日々感謝するばかりです。

小さい頃はちよつとイヤだった父のDNA
をしっかりと引き継いで、今日も私は愛媛FC
を応援します。

松山市在住

女性

44才

観戦歴7年目

あなたが「愛媛FCに元気をもらった」経験談をお寄せください。書式、形式、長さは自由です。実際の事例をご用意していますので参考にさせていただきます。http://efck.net/action/ 最も印象に残る経験談を漫画家能田先生が4コマ漫画にして下さいます。

●ご送信先: 本日、受付にご提出いただくか、下記の方法でお送りください。
 メール送信: orange@etime-support.net
 ファックス送信: 05034888325 (カバページは不要です。本文のみご送信ください)
 郵送: 〒791-0054 松山市空港通6-17-12 SMILE GOLF STUDIO(スマイルゴルフスタジオ) 受付 愛媛FCサポート連絡会

「愛媛FCに元気をもらった」を集めよう!

愛媛FCがJ2に上がって、2シーズンの二七を
止めた二七ができません。半心半疑で、二昇
格の輩も本当に実現して欲しい! 左近くん
のツイエフ、「愛をこめてあげて欲しい。必
ず本物の選手!」(と書いてくれた人)
えんじの二七)
お宅も近い地方の小さなクラブにも、そん
なクラブの役割があると思ってる。
J1に上がる二七 J2から上がる4人も
もろくも二七、二七二七、愛
媛FCにも気をつけてほしいと思う。
二七、中々二七の位置でも、そん二七で
二七が出来る。原石の中からキラキラする才
能を採掘し、二七育てる! 愛媛FCに挑戦
して、二七才能を開花し、ビッグクラブへ
目指そう! 愛媛FCから二七選手、大
丈夫! 信用できる。と言ってくれるクラブ
にできるのも二七二七の二七!
二七も二七二七二七二七
二七二七二七二七二七二七

1行目に題名を、
 末尾に
 よるしければ
 お住まいの市町村、
 年齢、性別、
 愛媛FC応援歴
 をご記入ください。
 (縦・横自由です)
 複数枚にわたる
 場合は1/3などと
 ページ数もご記入
 ください。

あなたが「愛媛FCに元気をもらった」経験談をお寄せください。書式、形式、長さは自由です。実際の事例をご用意していますので参考になさってください。http://efck.net/action/ 最も印象に残る経験談を漫画家能田先生が4コマ漫画にして下さいます。

● ご送信先: 本日、受付にご提出いただくか、下記の方法でお送りください。

メール送信: orange@etime-support.net

ファックス送信: 0503488325 (カバページは不要です。本文のみご送信ください)

郵送: 〒791-0054 松山市空港通6-17-12 SMILE GOLF STUDIO(スマイルゴルフスタジオ) 受付 愛媛FCサポート連絡会

「愛媛FCに元気をもらった」を集めよう！

1行目に題名を、
末尾に
よるしければ
お住まいの市町村、
年齢、性別、
愛媛FC応援歴
をご記入ください。
(縦・横自由です)
複数枚にわたる
場合は1/3などと
ページ数もご記入
ください。

負けも、次、次！ いいサッカーしてる人
じゃない。元気をもらって帰っていきな
らぬ。もうこれ元気でいって、可也野の元
サッカー一話記をしていって帰して
愛媛県人の誇りと希望を忘れない！！

横井中在任 女性 55才
(能田先生)

敬賀 7月

「礎～イシズエ～」

私が生まれたこの故郷に、明るい未来をもたらすため、たくさんの若者達が、その身を削り「礎」を築いてきた。

遠く振り返れば、四国リーグを闘った時代には、「二神洋幸選手の華麗なスルーパス」や「奥田真央選手による豪快なダイビングヘッド」。

JFLの時代には、「金子豊選手の弾丸フリーキック」や「小原光城選手の身体を張ったディフェンス」。

そしてJ2へと辿り着き、「猿田浩得選手による歓喜のゴール」や「羽田敬介選手のファインセーブ」等々。当然、全てを語り尽くせはしないが、今もなお、色褪せることなく光り輝く数々の「礎」が、私達の心を魅了し、現在の愛媛FCを形作っている。

今日もまた、このスタジアムでは、新たな「礎」が築かれようとしている。

ここに集えば、その「礎」を五感で体感する

ことが出来る。

ここに集えば、仲間達と「喜び」や「怒り」、「悲しみ」や「楽しさ」、全ての感情さえも共有出来る。

そんな人々の思いを飲み込むこの場所で、奇跡の如く生まれた「礎」。そのパワーが、皆を笑顔に変え、元気を与えてくれる。

元気になった皆のパワーが、また新たな「礎」を誕生させる。

『愛媛の明るい未来は、偽りではなく真実。』

スタジアムが、そう語りかけてくれるのだ。

松山市在住 男性44歳 応援暦13年

「小さな勇気」

4歳の次男は愛媛FCが大好き。特に、キーパーが大好きです。

かなりの人見知りで、人前には出るといつてもじもじして隠れてしまいう次男。そんな次男が、去年のフアン感謝祭で、勇気をふりしぼり、緊張を硬直した顔で小さい声で「が、大好きな川北選手に、」
「だ、こしてくだしやい。」
と言いました。川北選手は笑顔で、

「よし、し、だ、こかあ。」

と言、て抱、てして写真をとってくれました。

普段、兄の後ろで隠れる様にまじもじして

いる次男が、彼なりに大きな勇気をだしたお

願いに、笑顔でこたえてくれた川北選手。

次男はそれから、サインを自分でお願いし

たり、以前に比べ積極的になりました。

何気ない出来事ですが、次男にとっては、

自信をつける大きな出来事になりました。

川北選手ありがとうございました。

次男を成長させたくれた愛媛FC。
これからも応援していきたいと思えます。
次男は今、川北選手の様なサッカー選手を
目指し、サッカーカースクールに通って頑張っています。

松山市 女性 34歳 観戦歴6年

●ご送信先: 本日、受付にご提出いただくか、下記の方法でお送りください。
 メール送信: orange@ehime-support.net
 ファックス送信: 05034888325 (カバーページは不要です。本文のみご送信ください)
 郵送: 〒791-0054 松山市空港通6-17-12 SMILE GOLF STUDIO(スマイルゴルフスタジオ) 気付 愛媛FCサポート連絡会

あなたが「愛媛FCに元気をもらった」経験談をお寄せください。
 書式、形式、長さは自由です。実際の事例をご用意しています
 ので参考にさせていただきます。http://efck.net/action/ 最も印象
 に残る経験談を漫画家能田先生が4コマ漫画にさせていただきます。

「愛媛FCに元気をもらった」を集めよう!

1行目に題名を、
 末尾に
 よろしければ
 お住まいの市町村、
 年齢、性別、
 愛媛FC応援歴
 をご記入ください。
 (縦・横自由です)
 複数枚にわたる
 場合は1/3などと
 ページ数もご記入
 ください。

は	に		そ	と	一	場	杯	か	て		と	こ	付	を		が	「	よ	に
い	な	出	最	ッ	試	面	で	か	い	普	な	会	い	切		十	こ	う	つ
こ	な	身	も	て	合	に	浦	し	る	段	の	話	た	っ	四	の	に	に	い
で	い	は	元	は	毎	立	和	い	た	、	か	を	後	た	日	夏	父	つ	て
す	で	ぼ	気	は	の	ち	し	思	め	東	も	し	た	今	や	は	親	い	品
か	す	ろ	を	先	勝	会	レ	い	、	京	れ	れ	ち	や	い	が	言	て	評
と	の	う	も	述	敗	え	ッ	を	な	に	ま	ま	よ	ね	フ	葉	を	か	を
聞	の	で	ら	し	も	る	ズ	し	か	住	せ	こ	し	、	帰	を	か	云	た
か	の	ま	ッ	た	無	こ	に	て	な	み	ん	も	て	と	っ	続	云	後	た
わ	の	か	こ	よ	論	も	勝	い	か	な	。〇	あ	訛	か	て	け	後	た	ま
了	の	し	い	う	大	あ	つ	一	か	か		り	っ	わ	る	る	に	思	い
こ	の	や	よ	な	切	ま	と	方	試	う		ま	て	せ	ん	こ	が	あ	り
と	の	か	う	日	な	す	い	で	合	愛		あ	た	て	？	と	あ	り	ま
は	の	し	う	常	常	。〇	一	例	観	媛		い	が	か	？	が	あ	り	ま
は	の	し	う	生	生		方	え	戦	FC		は	俺	ら	あ	あ	り	ま	す
死	の	し	う	活	活		で	ば	が	を		珍	と	電	こ	あ	り	ま	す
ん	の	し	う	中	中		特	天	出	赤		しい	気	話	こ	い	や	い	ま
ど	の	し	う	で	で		別	皇	来	援		い	と	こ	い	や	い	ま	す
な	の	し	う	こ	こ		な	な	か	し		こ	と	こ	い	や	い	ま	す
い	の	し	う	こ	こ		な	な	も	し		こ	と	こ	い	や	い	ま	す
で	の	し	う	こ	こ		な	な	も	し		こ	と	こ	い	や	い	ま	す

